「平成 22 年度　伊勢湾流域圏一斉モニタリング」
確定版

平成 23 年　2月

伊勢湾再生推進会議

1. はじめに

本年度も多くの方々に「伊勢湾流域圏一斉モニタリング」にご協力頂きまして、ありがとうございました。

伊勢湾再生推進会議では、「人と森・川・海の連携により健全で活力のある伊勢湾を再生し、次世代に継承する」ことをスローガンとした伊勢湾再生行動計画に基づき、伊勢湾再生に取り組んでいます。

伊勢湾流域圏においては、より良い水環境のもと、多様な生物が生息・生育できる“健全な伊勢湾”、産業物流拠点としての優れた機能を活かしながら、人々が集まり、安全で憩いや安らぎを感じられる“活力ある伊勢湾”を再生するため、沿岸域だけでなく、広く流域圏の“人と森・川・海”が連携して伊勢湾再生に取り組んでいくとともに、これらの取り組みを継承していくことが大切だと考えています。

この度は、その一環として、皆様と、流域圏の自治体などが、海の水質が悪くなりやすい夏の時期に一斉にモニタリングを行いました。一斉モニタリングにより、伊勢湾流域圏全体の水環境を知ることができます。

この「伊勢湾流域圏一斉モニタリング」を通じて、市民の皆様が、伊勢湾にもっと関心を持っていただき、伊勢湾の再生のさらなる推進につなげてまいりたいと思います。

＜伊勢湾流域圏＞

伊勢湾流域圏とは、伊勢湾と伊勢湾に流れ込む河川の

集水域となっている地域のことです。

（上の図の水色および緑色で示した部分）

伊勢湾再生推進会議

・伊勢再生推進会議構成団体

国土交通省・海上保安庁・内閣府内閣官房地域活性化統合事務局

農林水産省・林野庁・水産庁・経済産業省・環境省・岐阜県

愛知県・三重県・名古屋市・名古屋港管理組合・四日市港管理組合

2. 「平成 22 年度　伊勢湾流域圏一斉モニタリング」概要

2.1　モニタリング期間

平成 22 年 7 月 28 日（水）～8 月 11 日（水）

2.2　モニタリングの種類

一斉モニタリングでは、主に自治体が参加した「分析による水質調査」、主に市民の方々が参加した「簡易水質テスト」、「ゴミ調査」、「生物調査」を実施しました。

① 分析による水質調査 （調査結果 p.7～15）
② 簡易水質テスト （調査結果 p.16～23）
③ ゴミ調査 （調査結果 p.24,25）
④ 水生生物調査 （調査結果 p.26～37）

2.3　モニタリング参加者

今年度は昨年度の参加数をこえて、伊勢湾再生に関心をお持ちの多くの団体・機関から参加いただきました。

表 1 今年度と昨年度の参加団体数の比較

	分析による水質調査	簡易水質テスト、ゴミ調査、生物調査
今年度（H22）	51	70
昨年度（H21）	35	60

◆分析による水質調査

【行政機関】

中部地方整備局（四日市港湾事務所、名古屋港湾事務所、名古屋港湾空港技術調査事務所、河川部）、第四管区海上保安本部（海洋情報部）、愛知県（愛知県建設部、愛知県環境部、愛知県尾張建設事務所新川西部浄化センター出張所、愛知県水産試験場、名古屋市、一宮市、岡崎市、春日井市、豊橋市、豊田市）、三重県（三重県、津市、明和町、鳥羽市、鈴鹿市、多気町、志摩市、大紀町、伊勢市、松阪市、桑名市、大台町、亀山市、四日市市、四日市港管理組合）、岐阜県（岐阜県、関市、各務原市、可児市、神戸町、安八町、大野町、富加町、美濃市、海津市、東白川村、御嵩町、大垣市、多治見市、関ヶ原町、坂祝町、本巣市、美濃加茂市、養老町）

【財団法人・NPO 法人】

NPO 法人ヒューマンマネージメントサポートセンター、（財）愛知水と緑の公社

◆簡易水質テスト、ゴミ調査、生物調査

【行政機関】

中部地方整備局（港湾空港部海洋環境・技術課、三河港湾事務所、四日市港湾事務所）、第四管区海上保安本部（名古屋海上保安部、鳥羽海上保安部、四日市海上保安部、三河海上保安署、衣浦海上保安署、中部空港海上保安航空基地、巡視艇しまなみ）、愛知県建設部、岐阜県郡上市、三重県津松阪港管理分所、宮川流域ルネッサンス協議会

【大学・研究機関】

豊橋技術科学大学建築都市システム学系

【市民団体・NPO 法人・個人】

松並木つくり隊、ぐるーぷ「かすみ草」、渡し場かもめ会、伏見22、高年エンバイロ21、ゲンゴロウ会、NPO法人藤前干潟を守る会、高年大学OB水質調査グループ、鯱城・堀川と生活を考える会、「あいちの海」グリーンマップ、山崎川グリーンマップ、特定非営利活動法人伊勢湾フォーラム、豊川流域圏を学ぶグループ、いまどきのこども調査隊、扇川を愛する緑の会、みどりのまちづくりグループ、矢田・庄内川をきれいにする会、伊勢湾流域圏再生ネットワーク事務局、大井まちづくり協議会スナメリの海事業、小林氏（個人）、小川氏（個人）、香流川をきれいにする会、小野氏（個人）、NPO法人糸貫川をきれいにする会、尾石氏（個人）、環境ネット四つ葉会、大垣市生活学校、可児市めだかの楽校、NPO法人長良川環境レンジャー協会、土岐市生活学校、高松干潟を守ろう会、雲出川フロンテー、NPO法人木曽三川ごみの会、亀山の自然環境を愛する会、地球クラブ、津市役所「水生生物調査学習会」、NPO法人阿漕浦友の会、「きれいな伊勢志摩づくり」連絡会議、特定非営利活動法人神社みなとまち再生グループ、木曽川文化研究会、四日市市環境学習センター・水沢地区市民センター、鈴鹿川浄化対策促進協議会

【企業】

名古屋みなと建設工事安全連絡協議会、日本工営株式会社名古屋支店、東洋建設株式会社名古屋支店、小塩通信株式会社、フェザー安全剃刀株式会社関工場、富士ゼロックスマニュファクチュアリング株式会社鈴鹿事業所自然愛好会、株式会社大滝工務店、若築建設株式会社

【学校】

養老町立広幡小学校、桑名市立伊曽島小学校 5,6 年、桑名市立光陵中学校、多気町松阪市学校組合立多気中学校、三重県立久居農林高等学校

2.4　水質調査地点

今年度(平成 22 年度)は、昨年より多くの地点で調査が実施されました。

表 2　今年度と昨年度の一斉モニタリング地点の比較

	分析による水質調査			簡易水質テスト		
	陸域	海域	計	陸域	海域	計
今年度(H22)	569	234	803	189	39	228
昨年度(H21)	264	69	333	78	28	106

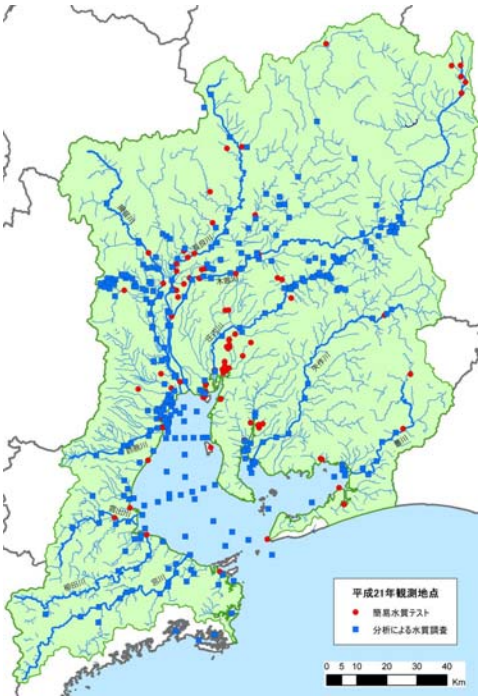


図 1　昨年の一斉モニタリング地点

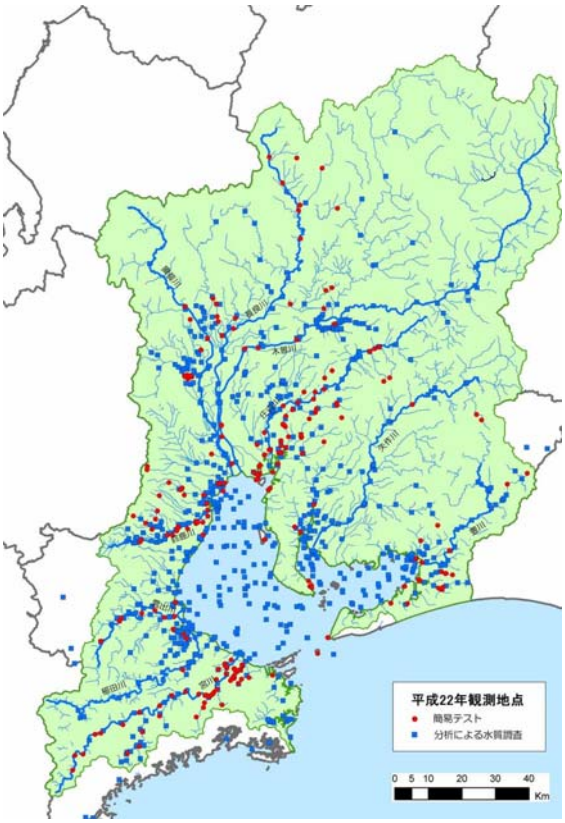


図 2　平成 22 年度の一斉モニタリング地点

※海域では、同じ場所で高さを変えて図っているところもあります。深さ方向で、どのように水質が変化しているかは「伊勢湾の溶存酸素濃度状況(参考)」で確認できます。

2.5　モニタリング実施時の気象・海象状況

一斉モニタリング期間（7/28～8/11）及び前後の気象状況を示しています。

モニタリング期間中の 7/29 には、台風の影響により雨が多く降り、風が強く吹いていました。また、気温が前後と比べると低くなっていることがわかります。

モニタリング期間中は前後の気象状況と比べて、雨が多く降り、太陽が出ている時間も少ないことから、曇空の日が多かったことがわかります。

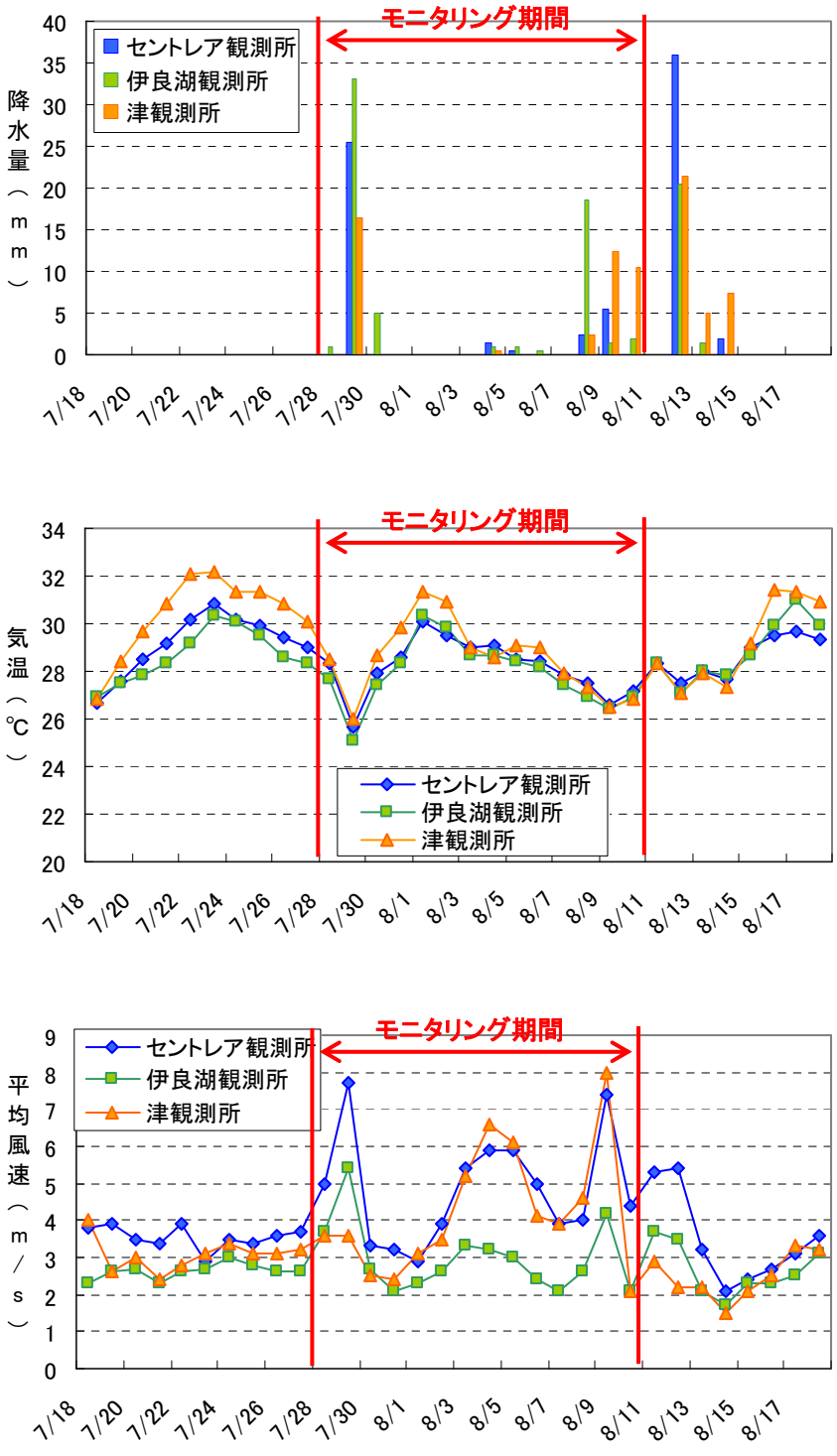


図 3　一斉モニタリング時の気象・海象状況①（降水量・気温・平均風速）

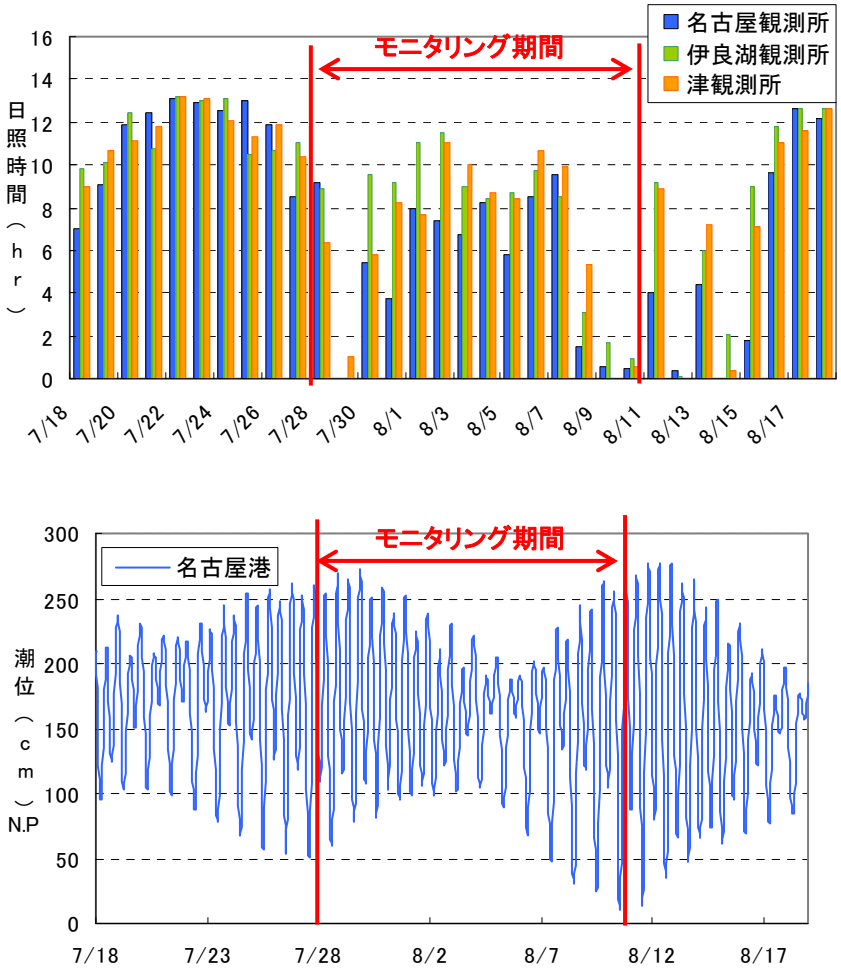


図 4　一斉モニタリング時の気象・海象状況②（日照時間・潮位）

3. モニタリング調査結果

3.1 分析による水質調査

分析による水質調査では様々な水質項目を調査していますが、一斉モニタリング結果では次の 8 項目を示します。

① BOD（生物的酸素要求量）
② COD（化学的酸素要求量）
③ pH
④ 全窒素
⑤ 全リン
⑥ DO（溶存酸素）
⑦ SS（浮遊物質）
⑧ 大腸菌群数

＜水質指標が示すもの＞

① BOD	有機物による水の汚れを示します。有機物を微生物が食べてきれいにするために消費される酸素量のことです。汚れるにつれて値が大きくなります。
② COD	有機物による水の汚れを示します。有機物を酸化剤が化学的に酸化するときに消費する量を酸素量に換算したものです。汚れるにつれて値が大きくなります。
③ pH	酸性・アルカリ性の程度を示します。水中の水素イオン濃度のことです。pH7 が中性、pH が 7 より小さければ酸性、大きければアルカリ性です。
④ 全窒素	水中に存在するいろいろな形態の窒素化合物における窒素の量を示します。窒素はリンと並んで動植物の生育にとって必須の元素であり、家庭排水などに含まれる窒素が海域や湖沼に流入すると富栄養化し赤潮の原因となります。
⑤ 全リン	水中に存在するいろいろな形態のリン化合物におけるリンの量を示します。リンとは窒素と並んで動植物の生育にとって必須の元素であり、家庭排水などに含まれるリンが海域や湖沼に流入すると富栄養化し赤潮の原因となります。
⑥ DO（溶存酸素）	水中に溶解している分子状酸素量を示します。水中の酸素量が多いほど値が大きくなります。溶存酸素は、水中の魚界類や好気性微生物などの呼吸などに使われるので、欠乏すると魚介類のへい死や水の腐敗が起こります。
⑦ SS（浮遊物質）	水中に浮遊している物質の量を示します。一定量の水をろ紙でこし、乾燥してその重量を測ります。汚れるにつれて値が大きくなります。
⑧ 大腸菌群数	大腸菌や大腸菌と性質が似ている細菌の数を示します。水中の大腸菌群数はし尿汚染の指標として使われています。

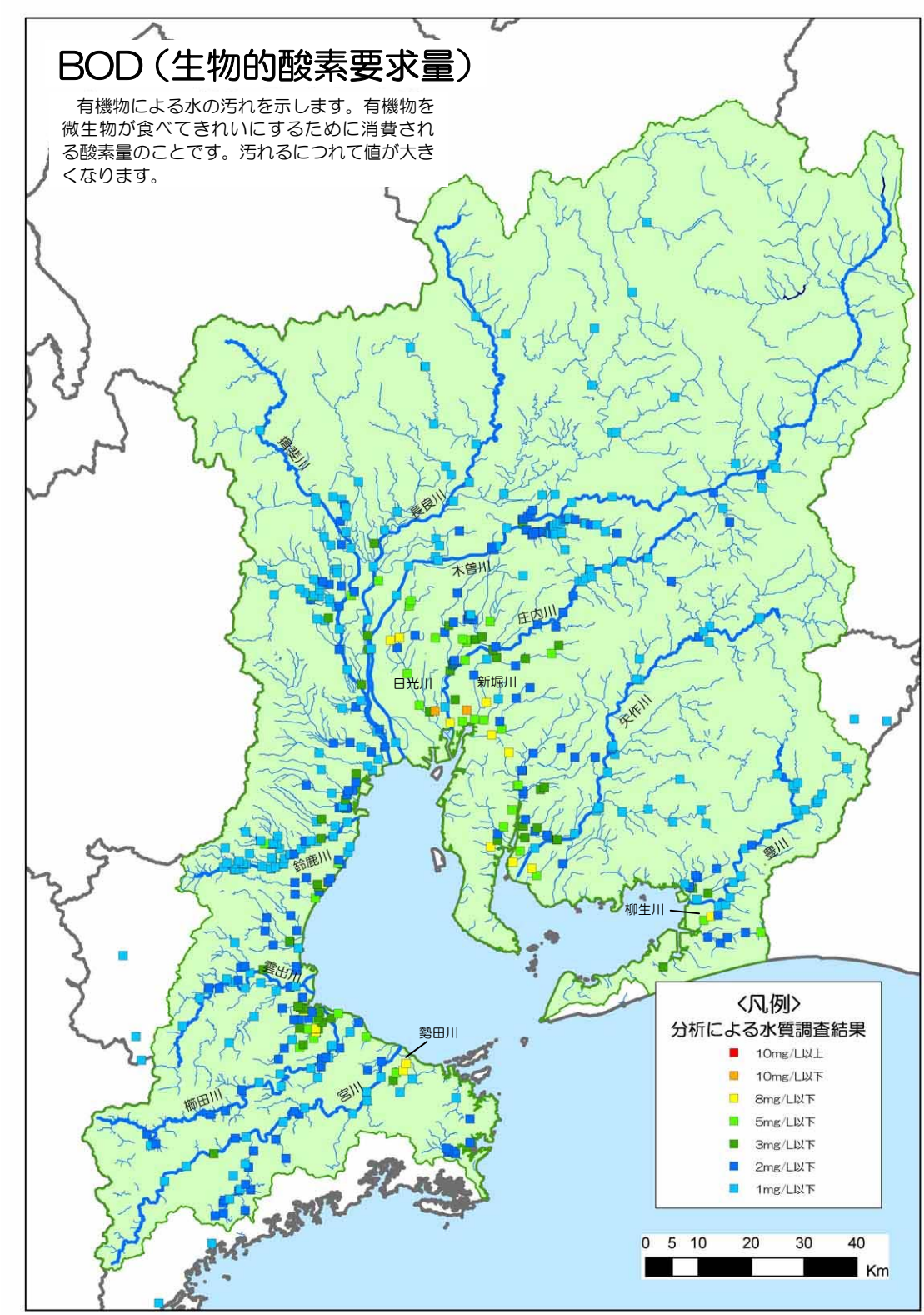


図 5 BOD（分析による水質調査結果）

各河川とも上流のほうは 2mg/L 以下となっており有機物による汚れは少ないですが、中下流の市街地に入ると有機物による汚れが増えてきています。特に三重県の勢田川や愛知県の柳生川、名古屋市内の河川（日光川、新堀川等）では 8mg/L 以上の高い値が観測され、有機物による汚れが大きくなっています。

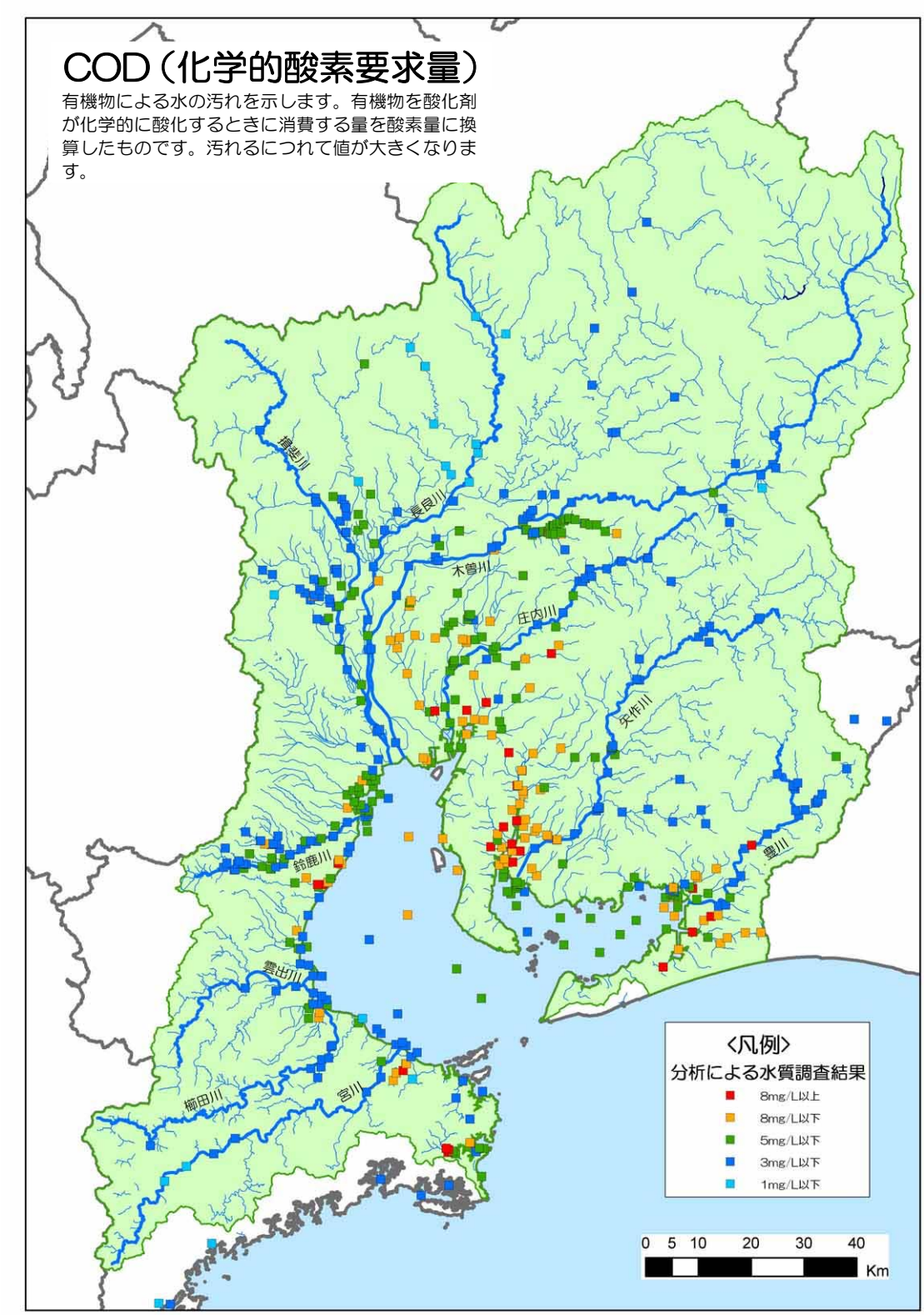


図 6 COD（分析による水質調査結果）

BOD と同様、各河川の中下流で値が大きくなっており、河川の中下流部では有機物による汚れが大きいことがわかります。海に出た後は希釈や自浄効果などで値は小さくなりますが、三河湾や伊勢湾の上側では 5mg/L 以上の高い値を観測しており、有機物量が高いままとなっています。

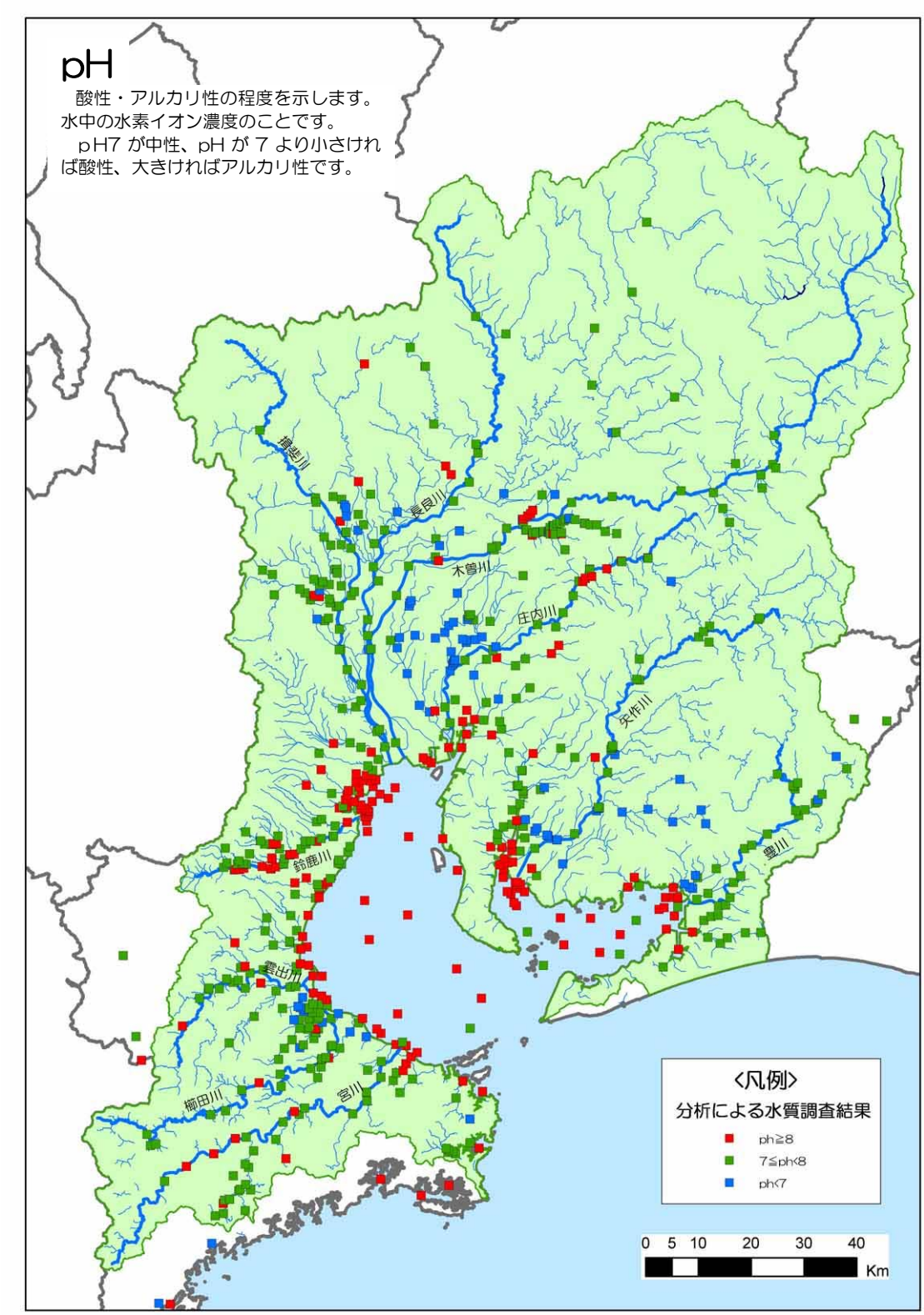


図 7 pH（分析による水質調査結果）

河川の pH は一般的に pH7 付近の中性で、河川の観測値の多くが pH7 付近となっています。河川の一部の地点では pH8 以上のアルカリ性を示していますが、地質などの自然の特性によって高くなることがあります。一方、海の pH は一般的に pH8 前後のアルカリ性を示すため、海の観測値は pH8 以上となっています。

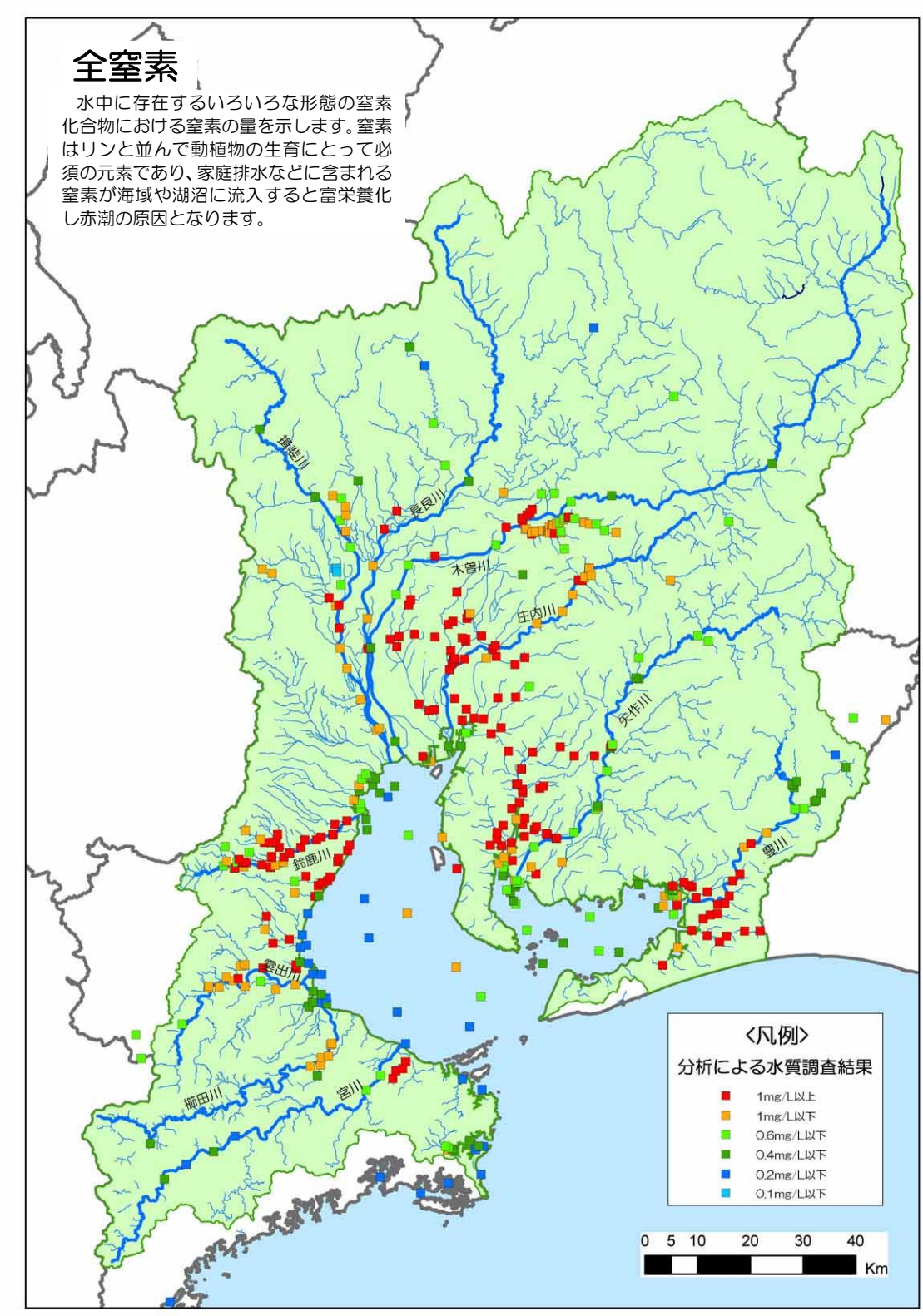


図 8 全窒素（分析による水質調査結果）

各河川の中下流で高くなっており、生活排水、田畑の肥料等による影響が考えられます。河川の河口部や海では低くなっていますが、三河湾奥では観測値が高い傾向にあります。

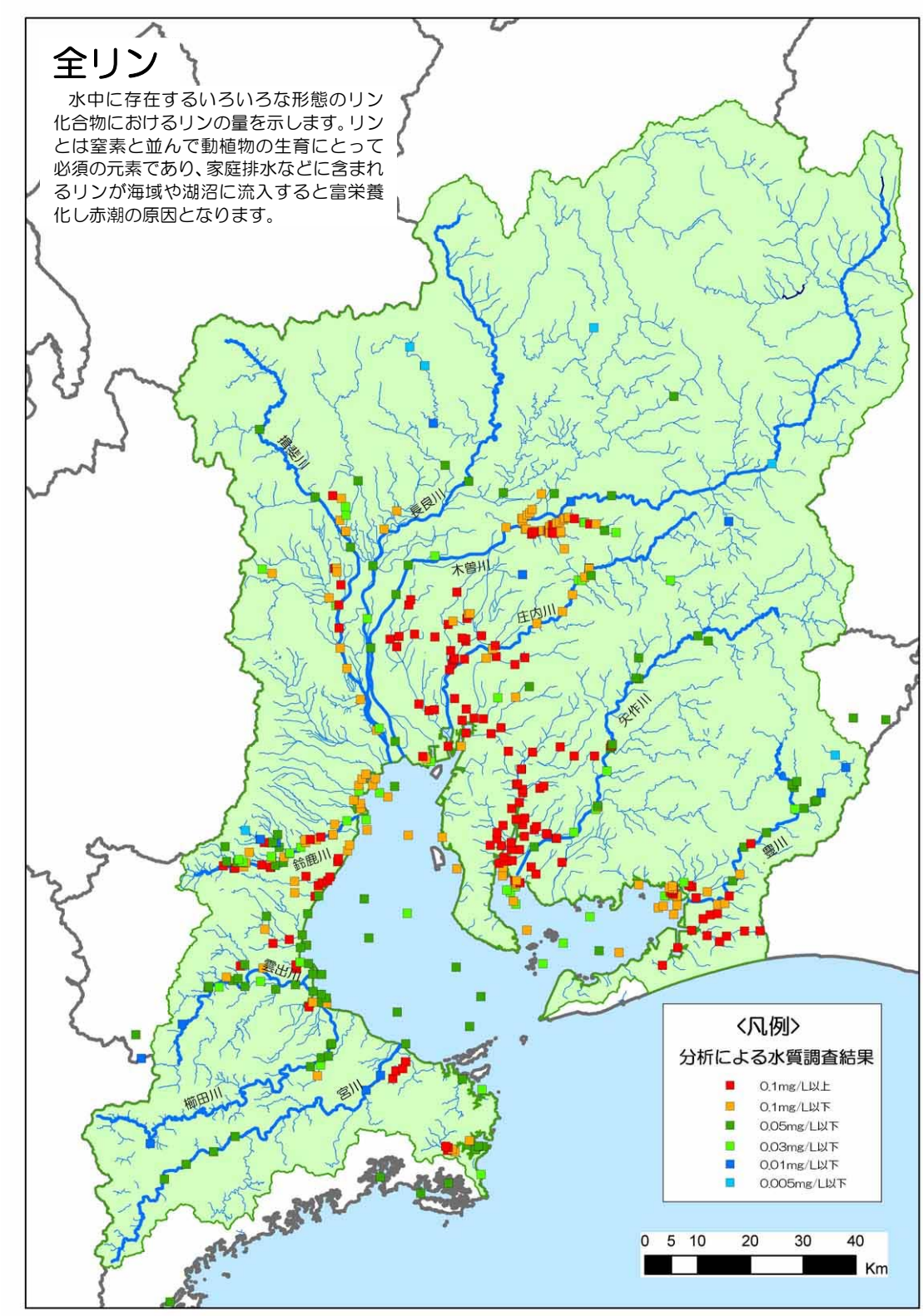


図 9 全リン（分析による水質調査結果）

全窒素と同様に、各河川の中下流で高くなっており、生活排水、田畑の肥料等による影響が考えられます。河川の河口部や海では低くなっていますが、三河湾奥では観測値が高い傾向にあります。

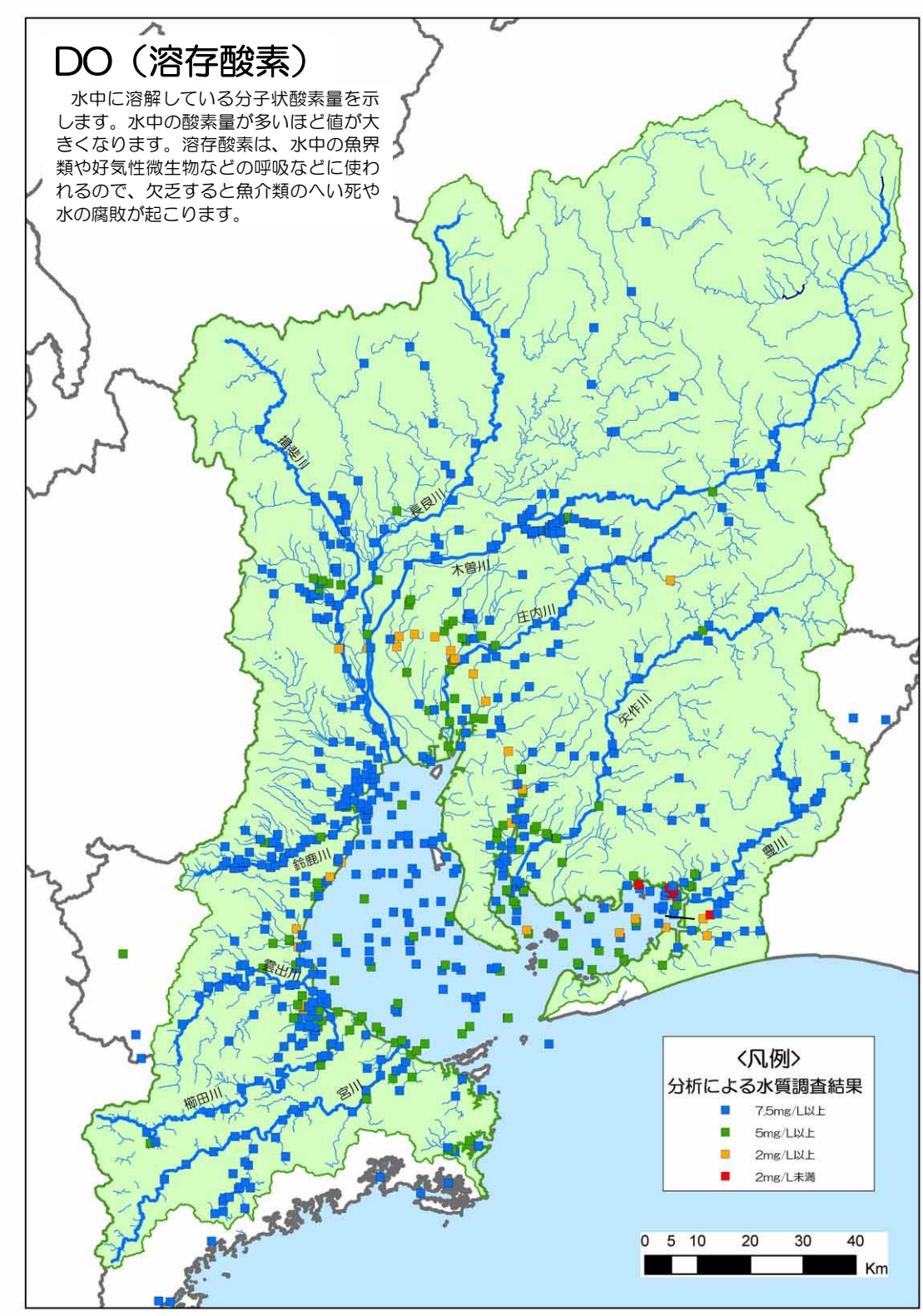


図 10 DO（分析による水質調査結果）

大河川（太い青線）では比較的 DO（溶存酸素）は多いですが、中小河川（細い青線）では DO(溶存酸素)が少ない箇所が見られ、酸素不足による水中の生物への影響や水の腐敗（におい）などが懸念されます。

（※海域は海面付近の値を示しています。海域の水深方向の DO 分布については、「伊勢湾の溶存酸素濃度状況（参考）」にてご確認ください。）

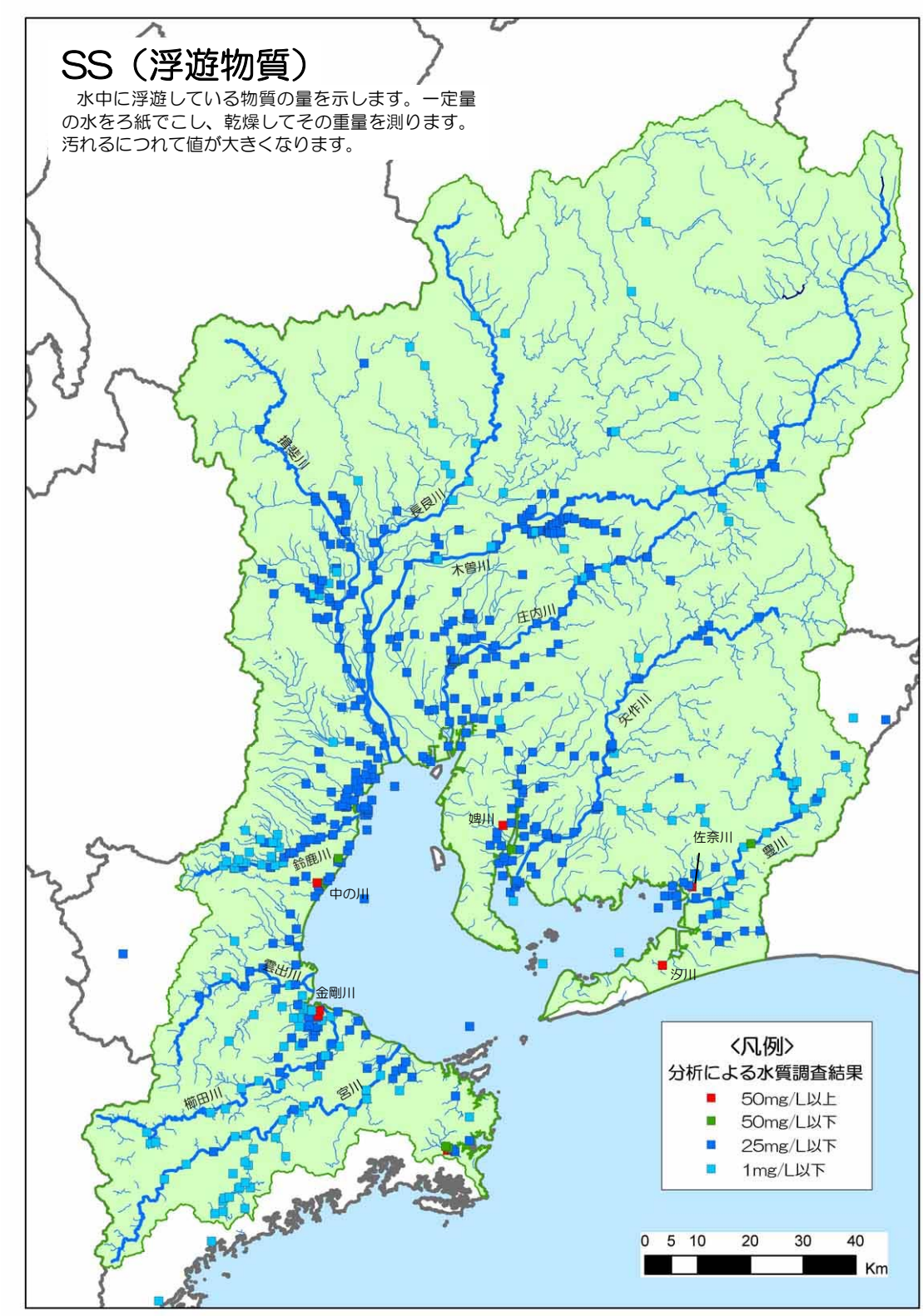


図 11 SS(分析による水質調査結果)

多くの観測地点は、25mg/L 以下となっており、SS(浮遊物質)による水の濁りは問題ないといえます。三重県の中の川や金剛川、愛知県の婢川、佐奈川、汐川にて高い値が観測されていますが、観測期間中の雨の影響や海からの影響が考えられます。

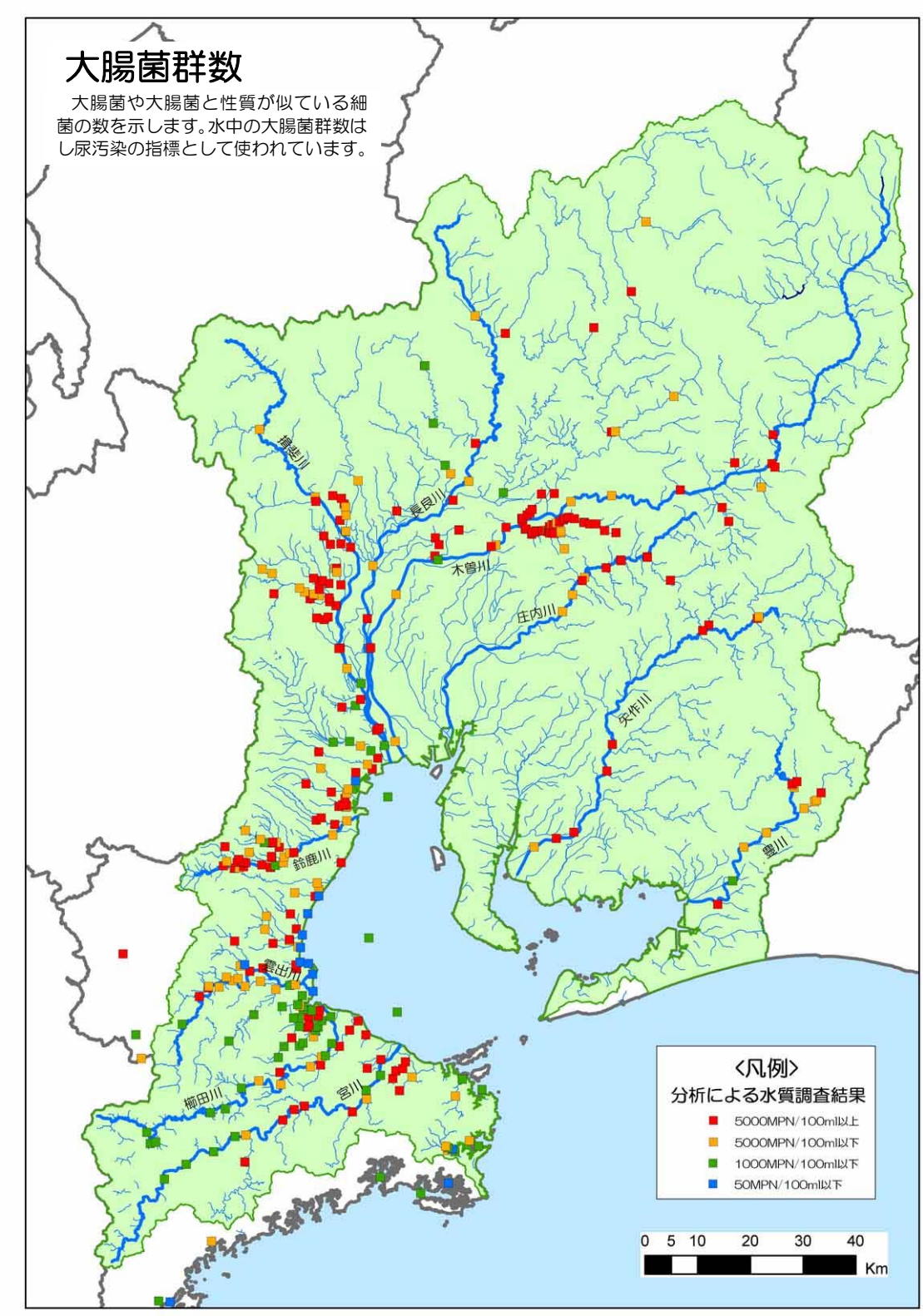


図 12 大腸菌群数（分析による水質調査結果）

多くの観測地点で、1000MPN/100ml以上の高い値を観測していますが、大腸菌群数は、し尿等による人為的由来によるものと、自然の土壌由来のものがあるため、一概に水が汚れているとは言えません。

3.2 簡易水質テスト結果

参加者の方々には、様々な項目で調査していただきました。

＜モニタリング調査項目＞

水温、COD（化学的酸素要求量）、NH_4-N（アンモニウム態窒素）、NO_2-N（亜硝酸態窒素）、NO_3-N（硝酸態窒素）、PO_4-P（リン酸態リン）、気温、水深、透視度、透明度、DO（溶存酸素）、濁度、風力・風向、雲量

その中で、調査した数が多く、伊勢湾の水質を示す、

① COD（化学的酸素要求量）
② NH_4-N（アンモニウム態窒素）
③ NO_2-N（亜硝酸態窒素）
④ NO_3-N（硝酸態窒素）
⑤ PO_4-P（リン酸態リン）

の結果を次のページ以降に示します。

＜水質指標が示すもの＞

① COD	有機物による水の汚れを示します。有機物を酸化剤が化学的に酸化するときに消費する量を酸素量に換算したものです。汚れるにつれて値が大きくなります。
② NH_4-N	家庭下水や工場排水、動植物の腐敗物質やし尿、畜産排水、化学肥料より窒素が流入します。この窒素が多量に溶け込んでいると、川・湖・海を富栄養化させ、プランクトンの異常発生をもたらします。 NH_4-N が高い場合、すぐ近くで生活排水や工場用水あるいは田畑から肥料分が流れていると考えられます。
③ NO_2-N	家庭下水や工場排水、動植物の腐敗物質やし尿、畜産排水、化学肥料より窒素が流入します。この窒素が多量に溶け込んでいると、川・湖・海を富栄養化させ、プランクトンの異常発生をもたらします。 NO_2-N は NH_4-N が NO_3-N に酸化される際の中間生成物で、不安定な物質であるため、通常蓄積されることはありません。しかし、pH 等の影響や窒素肥料の施肥量が多いと NO_2-N が集積することがあります。
④ NO_3-N	家庭下水や工場排水、動植物の腐敗物質やし尿、畜産排水、化学肥料より窒素が流入します。この窒素が多量に溶け込んでいると、川・湖・海を富栄養化させ、プランクトンの異常発生をもたらします。 きれいな水は NO_3-N の割合が高く、汚れた水は NH_4-N の割合が高くなります。しかし、NO_3-N が多量に存在すると人に影響を与えるため、水道水の水質基準では 10mg/L 以下と設定されています。
⑤ PO_4-P	リン酸態リンは植物の生育に必要な要素であり、生物の死骸により供給されますが、生活排水、肥料にも多く含まれ、富栄養化の原因となります。リン酸態リンが増加すると、植物プランクトンや藻類が異常発生し環境に悪影響を与えます。

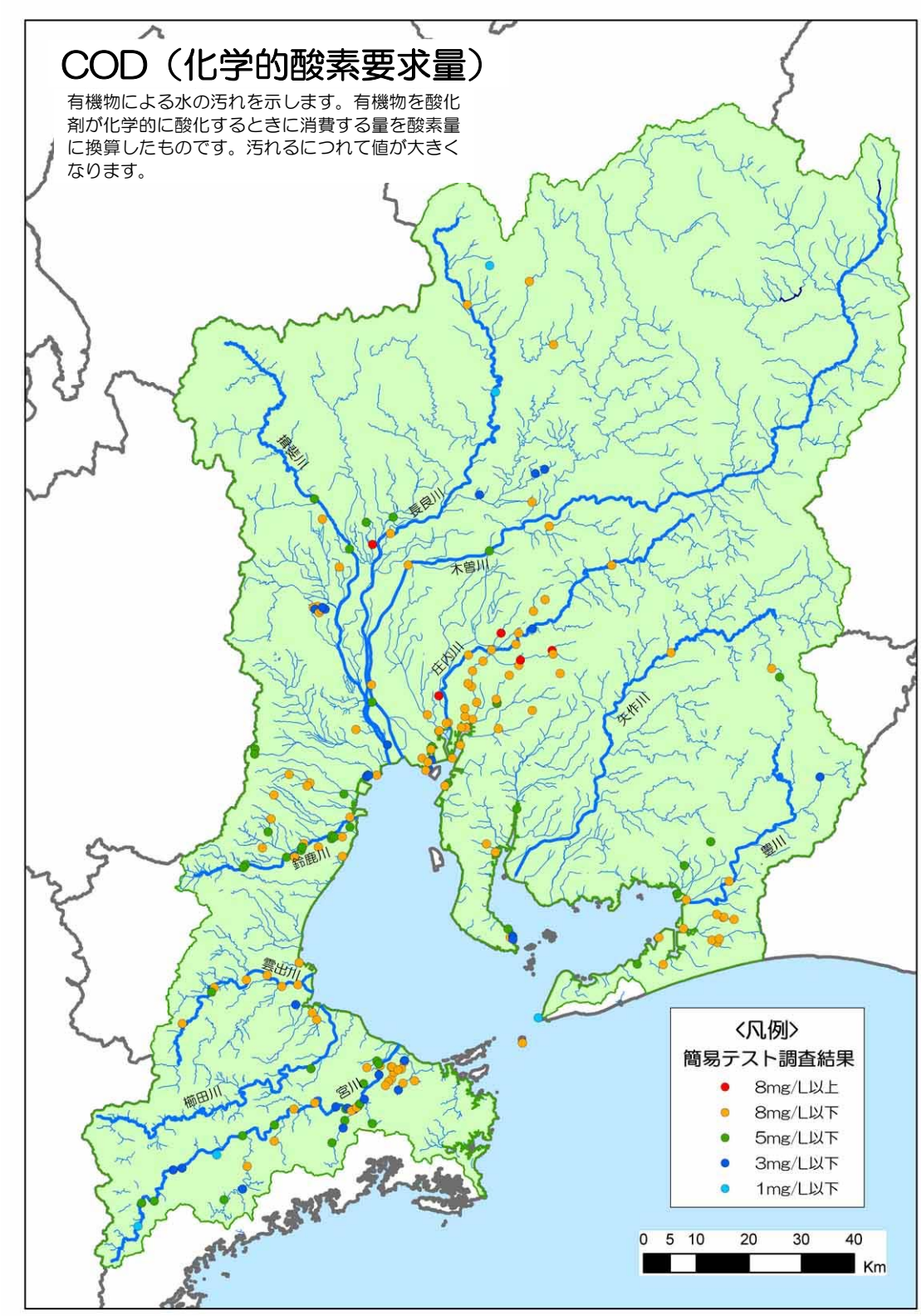


図 13 COD（簡易水質テスト結果）

中小河川や支川の末端で観測値が大きくなっており、有機物による汚れが大きくなっています。これは、中小河川や支川は、大河川に比べて水の量が少ないところへ生活排水が流入しているためと考えられます。

図 14 NH_4-N（簡易水質テスト結果）

三重県の四日市港や愛知県の庄内川中流で高い値を観測しており、工場排水の影響や生活排水・田畑からの肥料の影響が考えられます。0.5mg/L 以上になると、生物の生息環境としては良好とはいえない、とされています。

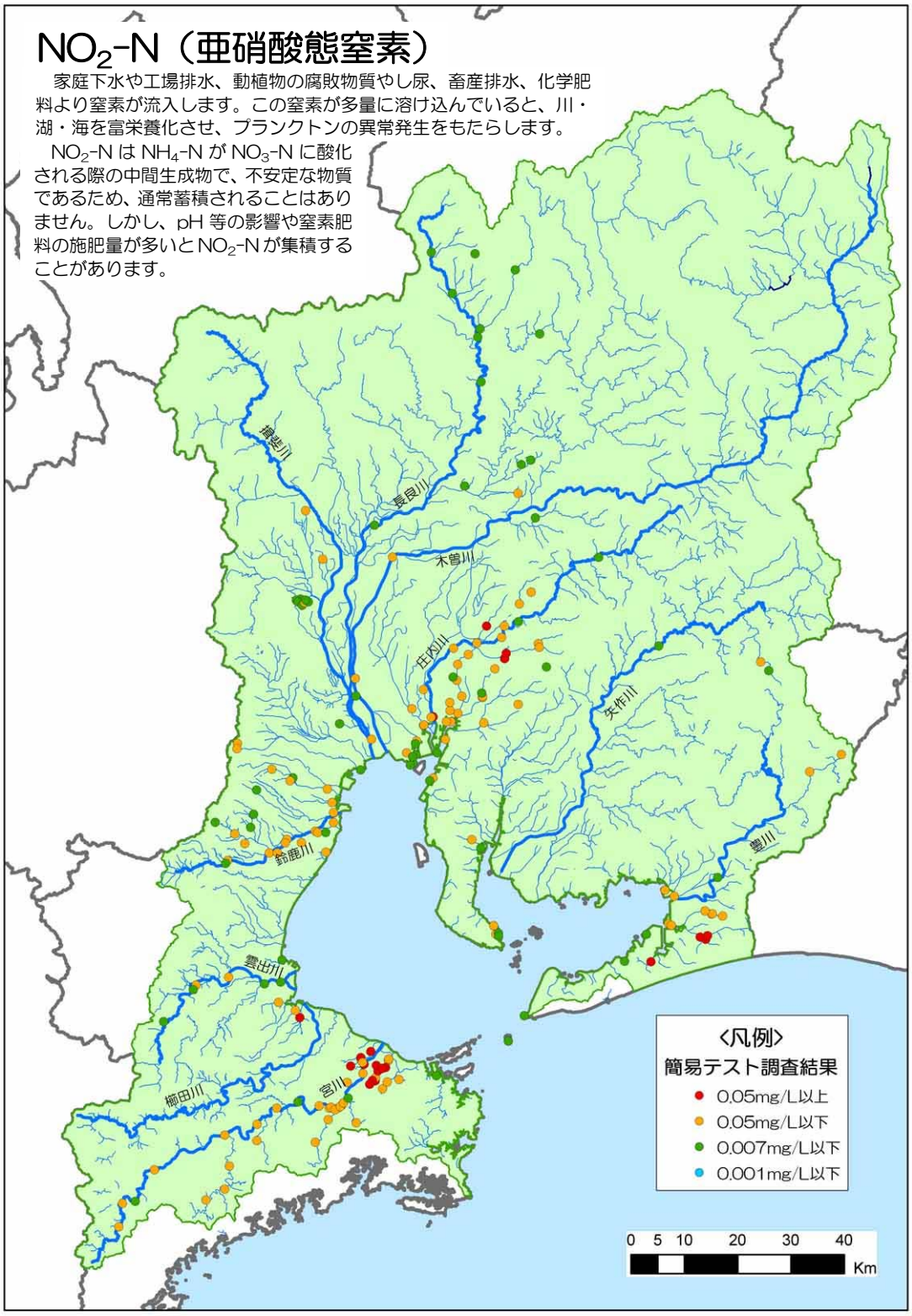


図 15 NO_2-N（簡易水質テスト結果）

NO_2-N(亜硝酸態窒素)は、NH_4-N（アンモニウム態窒素）が、NO_3-N(硝酸態窒素)へと変化する際の中間生成物で、比較的不安定な物質です。観測地点の多くでは、0.007～0.05mg/L の値を観測しています。

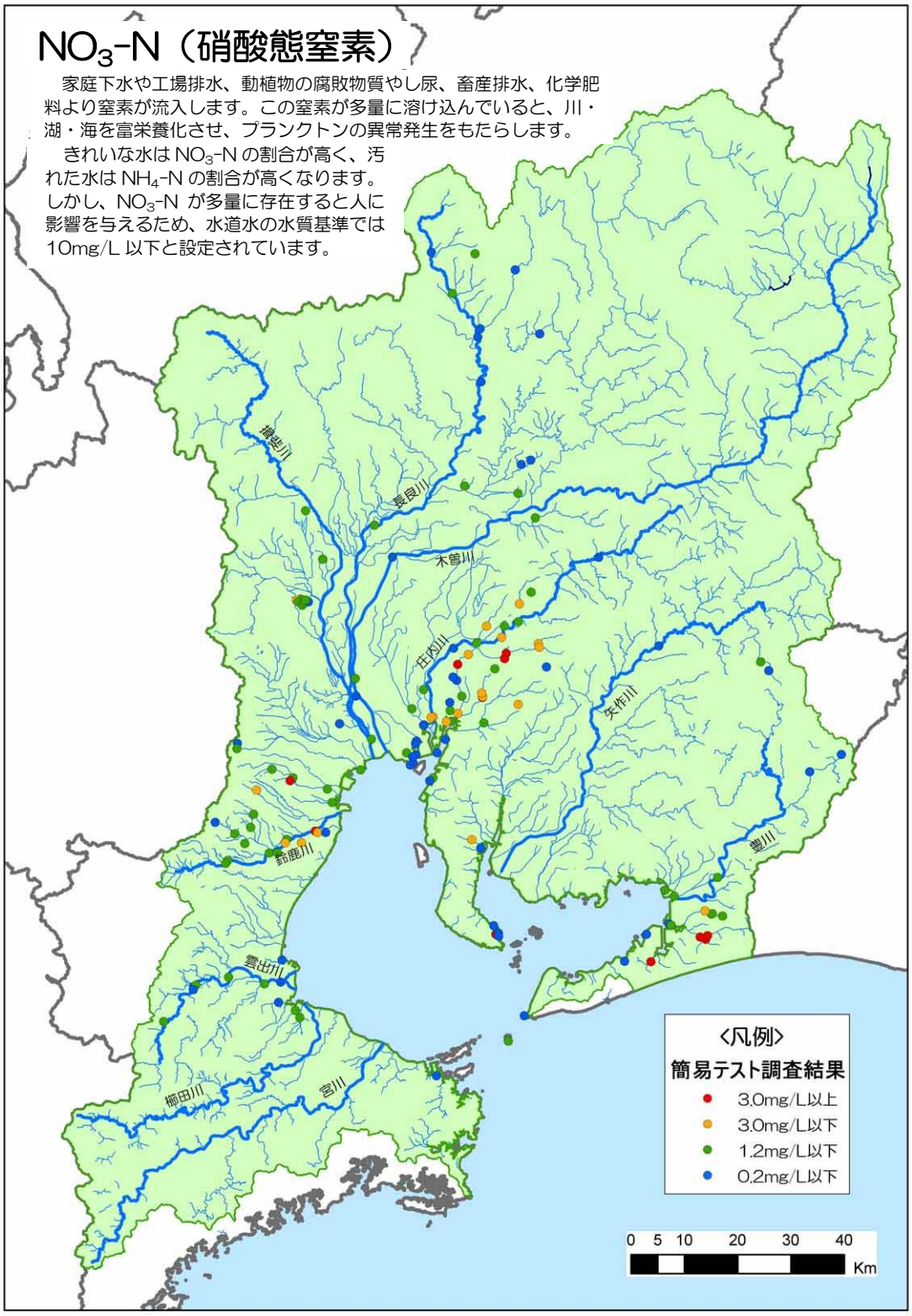


図 16 NO_3-N（簡易水質テスト結果）

河川の中流で高い地点がみられることから、家庭下水のほかに、畜産や化学肥料によって高くなっていると考えられます。水道水の水質基準は満たしていますが、伊勢湾に流出すると富栄養化（プランクトンの異常発生）の原因の一つになるので、今後も確認していく必要があります。

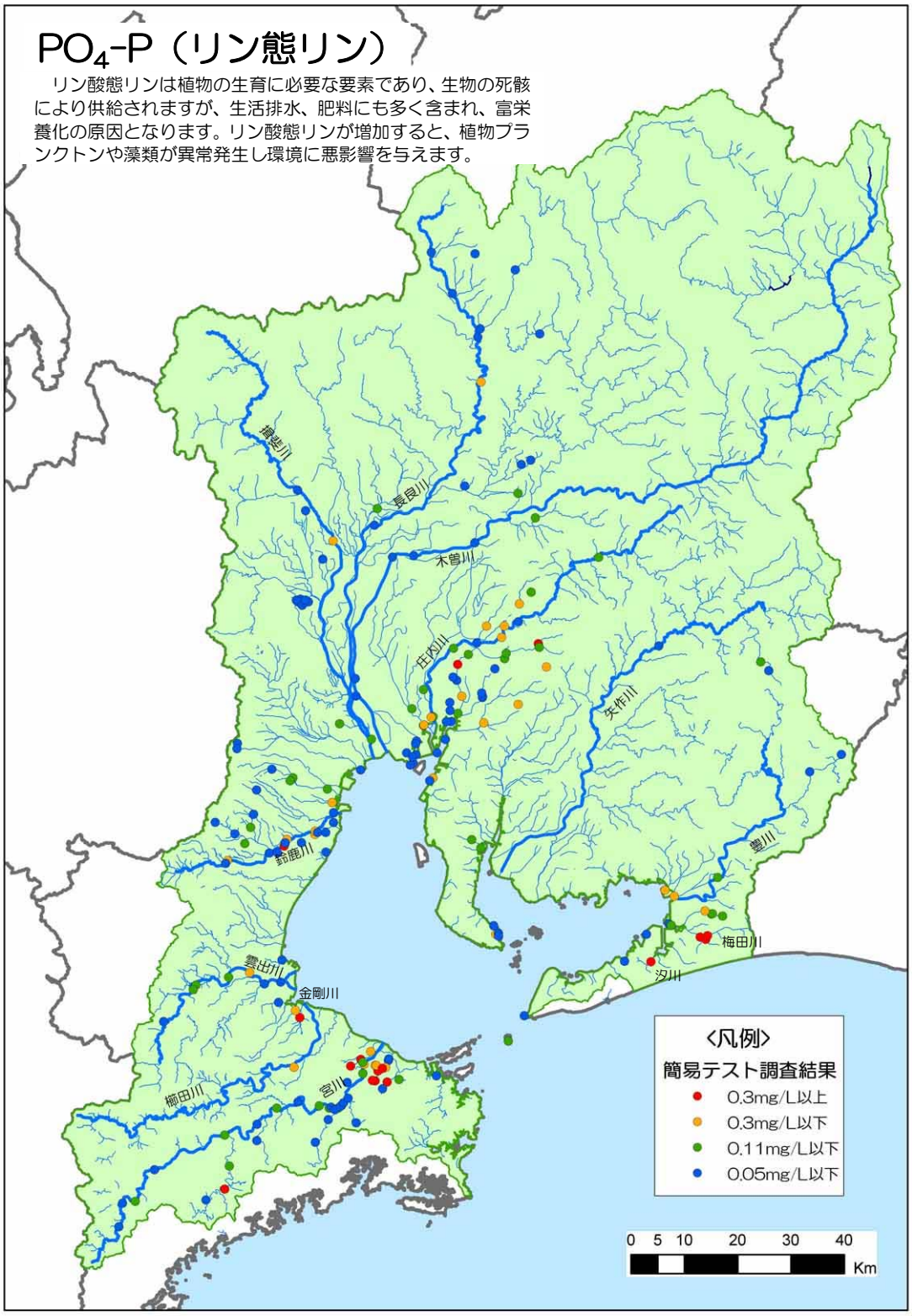
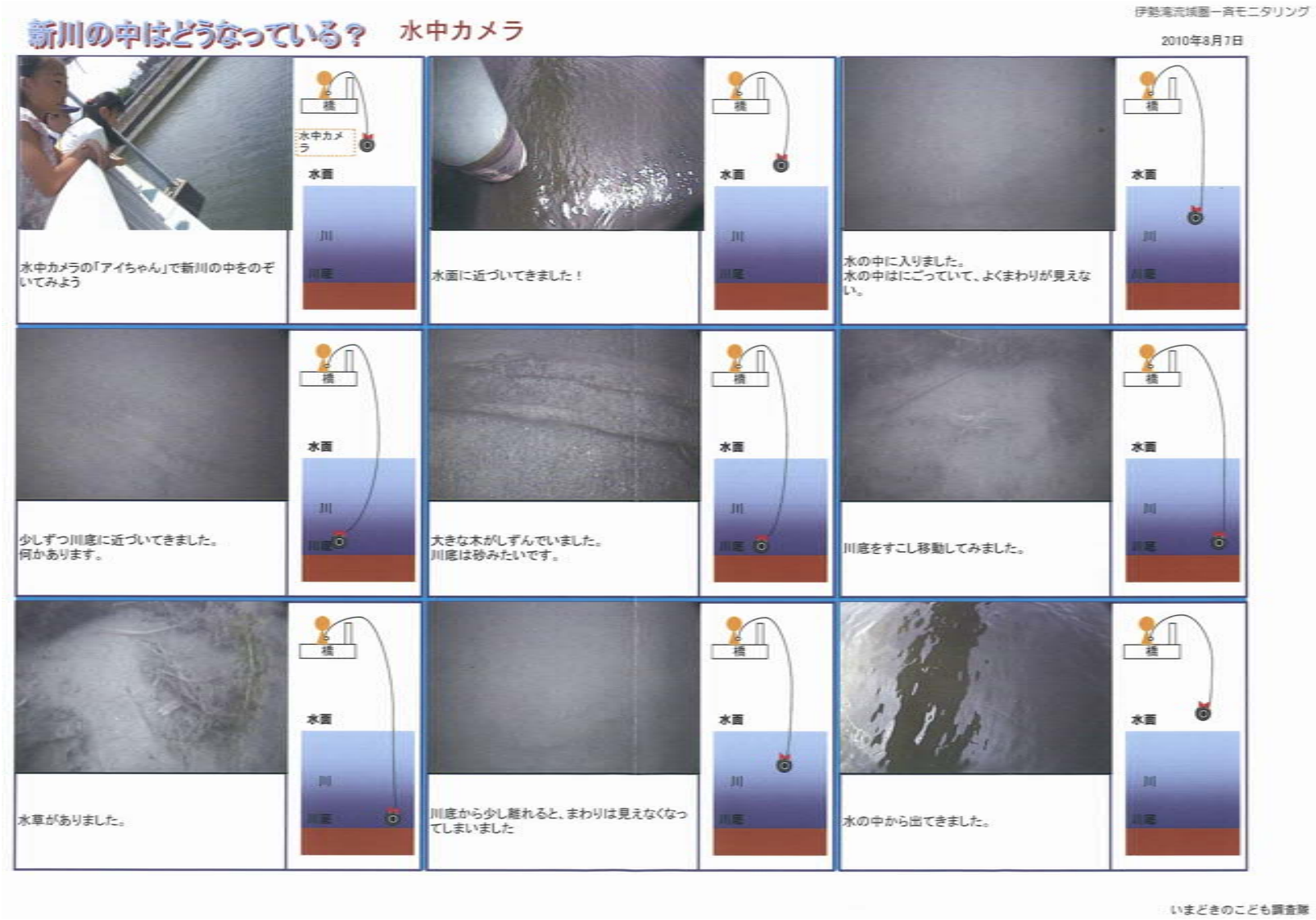


図 17 PO_4-P（簡易水質テスト結果）

分析調査結果の T-P と同様の傾向にあります。三重県の鈴鹿川、宮川、金剛川や愛知県の庄内川中流、梅田川、汐川で高い値が観測されており、生活排水の影響や田畑からの肥料の影響が考えられます。伊勢湾に流出すると富栄養化（プランクトンの異常発生）の原因の一つになるので、今後も確認していく必要があります。

いまどきのこども調査隊からはこのような報告もいただきました。

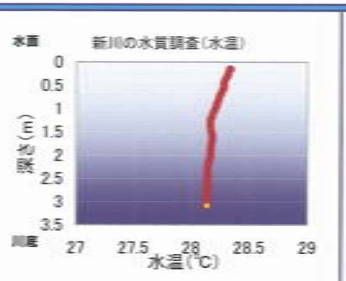


2010年8月7日

新川の中はどうなっている？　水質調査

水温

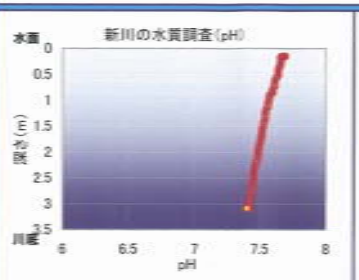
水の温度。水温は、水中に溶解している物質の化学的変化や生物の活動と密接な関係があるので、水質に大きな影響を与える。水温を測ることはその水の起源−河川水、地下水、伏流水、温泉、凝固水、排水など−を判定する要素となる。



ほぼ同じ温度（28℃）

pH

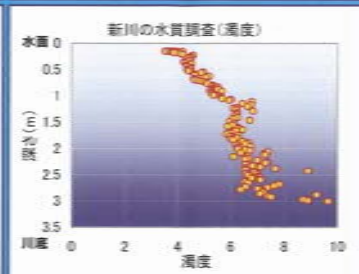
水の液性を示す指標の1つで、pH1～pH14まである。7が中性で、7より高い値がアルカリ性、7より低い値が酸性を示す。大気中には二酸化炭素があり、大気汚染の影響を受けなくとも雨水に吸収されて酸性となる。このため、雨水がpH5．6以下の値を示す場合に酸性雨と呼ぶ。石油や石炭が燃焼したときに発生する硫黄酸化物や、自動車などの排気ガスに含まれる窒素酸化物が雨水に溶け込んで酸性度の強い酸性雨となる。



ほぼ中性

濁度

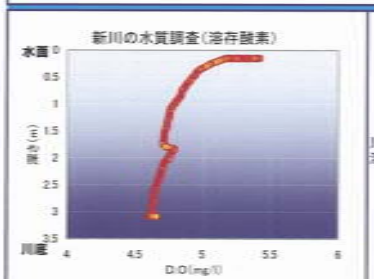
水の濁りの程度を表す指標で、精製水1L中に標準物質（カオリンまたはホルマジン）1mgを含む場合と同程度の濁りを濃度1度（または1mg／L）としています。
粘土などを水中に浮遊してると濁って見える。濁りの原因は粘土粒子やプランクトンなどの不溶解性微粒子など。



川底の水が水面近くの水より汚れている。見てわかるくらいにごっています。

溶存酸素

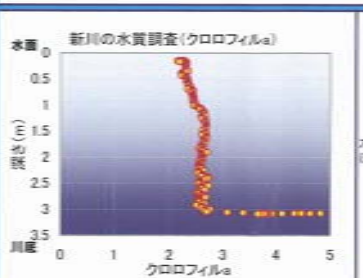
有機物をたくさん含んだ水（汚れた水）は、有機物が分解されるときに酸素が消費されるため、溶存酸素が少なくなる。溶存酸素が少なくなると酸欠となり魚なども死んでしまう。溶存酸素は水温、気圧、溶存塩などの影響を受ける。
きれいな水には溶存酸素が多い、 2mg／lで魚が棲息できない



川底の水は、水面より溶存酸素が少ない

クロロフィルa

葉緑素の一種であり、あらゆる植物性プランクトンに含まれている。
水中のクロロフィルaを測定することによって、水中に存在する植物性プランクトンの相対的な現存量を知ることができる。プランクトンが多いとクロロフィルが多くなる



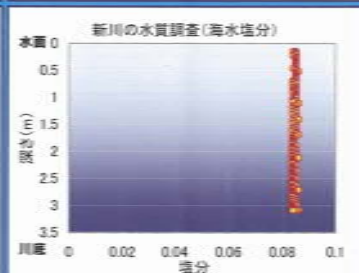
水面から川底までほぼ同じ

橋の上からセンサーをさげる

多項目水質計（たこうもくすいしつけい）

塩分

特に海水に多く含まれています。川の河口には海の水が入り塩分が高くなります。



水面から川底までほぼ同じ。海水は30～31なので、淡水。

使った機材

多項目水質計：pH、DO、電気伝導率、濁度、塩分、水温などをいっぺんに測ることが

3.3 ゴミ調査

報告いただいたゴミ調査の結果を示します。

【団体名:「きれいな伊勢志摩づくり」連絡会議】

JEAN

ゴミ調査・データカード International Coastal Cleanup (ICC) Data Card

A面

※以下が調査対象です。各ゴミの数を数えて、合計数を数字で記入してください。 記入例:タバコの吸殻・フィルター 正正…… 156

▼破片・かけら類(製品の3分の2未満のもの)

*硬質プラスチック破片	198	*発泡スチロール破片:大(1cm²以上)	138
*プラスチックシートや袋の破片	117	*ガラスや陶器の破片	1
*発泡スチロール破片:小(1cm²未満)	230	*紙片	
		*金属破片	15

▼陸上の活動で主に発生する品目

■タバコ	タバコの吸殻・フィルター	30	■生活・レクリエーション	漂白剤・洗剤類ボトル	1
				*スプレー缶・カセットボンベ	1
	タバコのパッケージ・包装	5		*生活雑貨	12
	葉巻などの吸い口			おもちゃ	2
	使い捨てライター	3		風船	
■飲料	飲料用プラボトル	8		*花火	
	飲料ガラスびん	1	■衣料	衣服類	
	飲料缶	1		くつ・サンダル	3
	ふた・キャップ	15	■大型粗大ゴミ	家電製品・家具	
	プルタブ	1		電池(バッテリーも含む)	
	6パックホルダー			*自転車・バイク	
■食品	食器(わりばし含む)	12		タイヤ	
	ストロー・マドラー	16		自動車・部品(タイヤ・バッテリー以外)	
	食品の包装・容器	11		潤滑油缶・ボトル	
	プラスチック袋(農業用以外)		■物流	梱包用木箱	
	紙袋(農業用以外)			物流用パレット	
■農業	農薬・肥料袋			荷造り用ストラップバンド	1
	シート類(レジャー用など)			ドラム缶	
	*苗木ポット	4	■建築	くぎ・針金	
■特殊	薬きょう(猟銃の弾丸の殻)			建築資材(くぎ・針金以外)	12
	*レジンペレット		■衛生	コンドーム	
■医療	注射器			タンポンのアプリケーター	
	*注射器以外の医療ゴミ	2		紙おむつ	

▼海・河川・湖沼の活動で主に発生する品目(水産・釣り関係など)

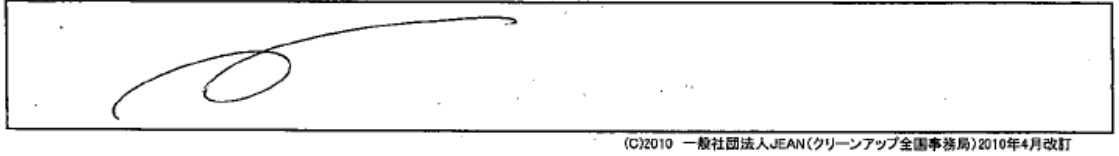
釣り糸		*魚箱(トロ箱)	
ロープ・ひも	36	釣りえさ袋・容器	
漁網	1	電球・蛍光灯(家庭用も含む)	3
発泡スチロール製フロート		ルアー・蛍光棒(ケミホタル)	
ウキ・フロート・ブイ	2	*カキ養殖用パイプ	
かご漁具		*廃油ボール	

▼次の項目に当てはまるものを記入してください。(書ききれない場合は裏面に)

A. 上記以外で、地域で特に問題と思われるもの(→次のとおり記入:①品目、②個数)

B. ゴミによる動物への被害＊原因不明は対象外(→①動物名、②動物の生死、③原因のゴミ、④状態)

C. 上記中、海外のもの(→①国名、②品目、③個数)



(C)2010 一般社団法人JEAN(クリーンアップ全国事務局)2010年4月改訂

【団体名：中部地方整備局四日市港湾事務所】

2）　ゴミの状況（目視確認結果）

＜ゴミの確認個所とゴミの種類等＞

② 富洲原漁港前面　奥

① 富洲原漁港前面

⑤ 朝明川河口干潟前面流木

注：位置（番号）は目視による概略地点

番号	種　類	量	確認時間	番号	種　類	量	確認時間	備考
①	ペットボトル等	20個程度	8:45	④	流木	1	11:14	●富洲原漁港前では上げ潮により、徐々にゴミが奥側に集積していた（①→②）。 ●8月10日、12日、14日の雨の影響と考えられるが、朝明川河口付近では流木（木片）が多く確認され、干潟付近では潮や風波などにより岸付近に押し寄せられていた。
	枯草・木片	多数		⑤	流木	2	11:45	
②	トレイ	3個程度				河口東側1		
	枯草・木片	多数						
③	木片	少々	10:34					

3.4　水生生物調査

報告いただいた水生生物調査結果を示します。

【団体名：山崎川グリーンマップ（1/2）】

団体名：　　山崎川グリーンマップ

山崎川ふれあい親水公園での調査結果　8月7日10：00～12：00
天気：晴　　水温：25℃　　透明度：100cm以上　　COD：7mg/L

在来種		外来種	
カマツカ	2　この地点ではじめて	コイの稚魚	50+
ドジョウ	1	ブルーギル	30+
カワヨシノボリ	2	カダヤシ	10+
ゴクラクハゼ	1	アメリカザリガニ	2
スミウキゴリ	10～15	ウシガエル	1
スジエビ	3	外来プラナリア	20
テナガエビ	10	サカマキガイ	○
モクズガニ	1♀	カラドジョウ	10+
ヌマエビ	3（♂1、♀2）		
ミズムシ	10		
ヒル	30+		
セスジユスリカ	○		
ガガンボ	1		
ウスバキトンボヤゴ	2		
サホコカゲロウ	○		

＊カラドジョウについては、今回はじめて確認した。上流の千種区大島町で放流？

＊例年一番多く見られるオイカワがいなくなった。猫が洞池からの通水が3月から完全に止まっており、水位が低下しているからだろうか？

＊例年ほとんど見られないブルーギルとコイの稚魚がふえているのが気になる。

左右田橋での定置網とカメ罠

ブルーギル8、テネガエビ15、コイの稚魚10、モツゴ1、ギンブナ1、クサガメ6、イシガメ3、ミシシッピアカミミガメ5、スッポン2

なおイシガメについては昨年に引き続き全部メスだった。

【団体名：山崎川グリーンマップ（2/2）】

８月７日（土）午前
山崎川生き物観察会カメ罠引き上げ＆親水公園のガサガサ
一般参加２歳～中学２年生　が２７名、　付き添い大人１４名
栃木県佐野高校生物部から８名、山崎川グリーンマップより１４名、
鳥撮り会より３名、その他取材 CBC,スターキャット、中日新聞、瑞穂フォーラム

カメ罠と定置網引き上げ

午後は親水公園でガサガサ

７日の１４：００～１６：００　８日の１４：００～１６：００は東山荘でカメの住民票作り

【団体名：四日市市環境学習センター・水沢地区市民センター】

平成22(2010)年度全国水生生物調査結果　集計用紙　5/5　別添様式 2

調査団体名	四日市市環境学習センター・川島地区市民センター	複数団体が合同で実施している場合は、代表的な団体名をひとつ記入し、他の団体名は代表的な団体の後ろに（ ）をつけて記入して下さい。	
市町村名	四日市市	調査参加人数	30 人

指標生物（見つかった指標生物に○印、数が多かった上位から2種類（最大3種類）に●印をつけて下さい）

水質階級Ⅰ	1	アミカ	
	2	ウズムシ	
	3	カワゲラ	
	4	サワガニ	
	5	ナガレトビケラ	
	6	ヒラタカゲロウ	
	7	ブユ	
	8	ヘビトンボ	
	9	ヤマトビケラ	
水質階級Ⅱ	10	イシマキガイ	
	11	オオシマトビケラ	
	12	カワニナ	●
	13	ゲンジボタル	○
	14	コオニヤンマ	
	15	コガタシマトビケラ	
	16	スジエビ	
	17	ヒラタドロムシ	
	18	ヤマトシジミ	
水質階級Ⅲ	19	イソコツブムシ	
	20	タイコウチ	
	21	タニシ	
	22	ニホンドロソコエビ	
	23	ヒル	
	24	ミズカマキリ	
	25	ミズムシ	○
水質階級Ⅳ	26	アメリカザリガニ	○
	27	エラミミズ	
	28	サカマキガイ	
	29	セスジユスリカ	○
	30	チョウバエ	

水質階級	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
1. ○印と●印の個数		2	1	2
2. ●印の個数		1		
3. 合計(1種＋2種)		3	1	2

この地点の水質階級は　Ⅱ　です

調査地点の概要
（生物を採取した場所の状況について記入して下さい）

調査河川名	鹿化川
調査地点名	新川島橋上流
昨年度の調査状況（昨年度調査に参加した方のみチェックして下さい）	今年の調査地点は昨年度と同じですか？ ☐同じ場所で調査した 昨年度の水質階級は ☐Ⅰ ☐Ⅱ ☐Ⅲ ☐Ⅳ ☑ちがう場所で調査した
調査日時	2010年　7月　25日　9時 開始時刻を24時間で記入して下さい。（午後2時は14時）
天気	☑はれ ☐くもり ☐雨 調査時の天気をチェックして下さい
水温	24.　℃（小数点1桁まで記入して下さい）
川幅	約　5 m 水の流れの幅を整数で記入して下さい
生物採取場所	☑川の中心 ☑上流から見て右岸 ☑上流から見て左岸 採取した場所をチェックして下さい
水深	約　20 cm 採取した場所の平均的な水深を記入して下さい
以下は、生物を採取した場所にあてはまるものをチェックして下さい	
流れのはやさ	☐速い（毎秒60cm以上） ☐普通（毎秒30～60cm） ☑遅い（毎秒30cm以下）
川底の状態	☐頭大の石が多い ☑こぶし大の石が多い ☑小石と砂 ☐コンクリート ☐砂と泥 ☐泥 ☐コケ ☐その他
水のにおい	☑においは感じられない ☐においが感じられる （ドブ、石油、薬のような不快感のあるにおい）
水のにごり	☑透明またはきれい ☐少しにごっている ☐大変にごっている

その他の生物（水生昆虫、貝、エビ・カニ類）		魚類
ガガンボ、シジミ、		カマツカ、カワムツ、ヨシノボリ
モクズガニ、オタマジャクシ		メダカ、ドジョウ、シマドジョウ
アマガエル、トノサマガエル		ハヤ、ヨシノボリの卵
ヤゴ		
水草類	鳥類	その他、気づいたこと

【団体名：土岐市生活学校（1/4）】

土岐市生活学校

平成22（2010）年度　調査結果集計用紙

調査団体名	土岐市生活学校	複数団体が合同で実施している場合は、代表的な団体名をひとつ記入し、他の団体名は代表的な団体の後ろに（　）をつけて記入して下さい。	
市町村名	土岐市	調査参加人数	23　人

指標生物（見つかった指標生物に○印、数が多かった上位から2種類（最大3種類）に●印をつけて下さい）			
水質階級Ⅰ	1	アミカ	
	2	ウズムシ	○
	3	カワゲラ	○
	4	サワガニ	○
	5	ナガレトビケラ	●
	6	ヒラタカゲロウ	○
	7	ブユ	
	8	ヘビトンボ	
	9	ヤマトビケラ	
水質階級Ⅱ	10	イシマキガイ	
	11	オオシマトビケラ	
	12	カワニナ	●
	13	ゲンジボタル	
	14	コオニヤンマ	
	15	コガタシマトビケラ	
	16	スジエビ	
	17	ヒラタドロムシ	
	18	ヤマトシジミ	
水質階級Ⅲ	19	イソコツブムシ	
	20	タイコウチ	
	21	タニシ	
	22	ニホンドロソコエビ	
	23	ヒル	
	24	ミズカマキリ	
	25	ミズムシ	
水質階級Ⅳ	26	アメリカザリガニ	
	27	エラミミズ	
	28	サカマキガイ	
	29	セスジユスリカ	
	30	チョウバエ	

水質階級の判定	水質階級	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
	1．○印と●印の個数	5	1		
	2．●印の個数	1	1		
	3．合計（1欄＋2欄）	6	2	0	0

この地点の水質階級は　Ⅰ　です

調査地点の概要（生物を採取した場所の状況について記入して下さい）	
調査河川名	肥田川
調査地点名	濃南中学校
昨年度の調査状況（昨年度調査に参加した方のみチェックして下さい）	今年の調査地点は昨年度と同じですか？ ■ 同じ場所で調査した 昨年度の水質階級は □ Ⅰ ■ Ⅱ □ Ⅲ □ Ⅳ □ ちがう場所で調査した
調査日時	2010 年 8 月 6 日 10 時 開始時刻を24時間で記入して下さい。（午後2時は14時）
天 気	■ はれ □ くもり □ 雨 調査時の天気をチェックして下さい
水 温	18.0 ℃（小数点1桁まで記入して下さい）
川 幅	約 2.0 m 水の流れの幅を記入して下さい（小数点1桁まで記入できます）
生物採取場所	■ 川の中心 ■ 上流から見て右岸 ■ 上流から見て左岸 採取した場所をチェックして下さい
水 深	約 20 cm 採取した場所の平均的な水深を記入して下さい
以下は、生物を採取した場所にあてはまるものをチェックして下さい	
流れのはやさ	□ 速い（毎秒60cm以上） □ 普通（毎秒30～60cm） ■ 遅い（毎秒30cm以下）
川底の状態	■ 頭大の石が多い □ こぶし大の石が多い □ 小石と砂 □ コンクリート □ 砂と泥 □ 泥 □ コケ □ その他
水のにおい	■ においは感じられない □ においが感じられる （ドブ、石油、薬のような不快感のあるにおい）
水のにごり	■ 透明またはきれい □ 少しにごっている □ 大変にごっている

その他の生物（水生昆虫、貝、エビ・カニ類）		魚　類
ヤゴ		
水草類	鳥　類	その他、気づいたこと

【団体名：土岐市生活学校（2/4）】

調査団体名	土岐市生活学校	複数団体が合同で実施している場合は、代表的な団体名をひとつ記入し、他の団体名は代表的な団体の後ろに（　）をつけて記入して下さい。	
市町村名	土岐市	調査参加人数	23　人

指標生物（見つかった指標生物に○印、数が多かった上位から2種類（最大3種類）に●印をつけて下さい）			
水質階級Ⅰ	1	アミカ	
	2	ウズムシ	
	3	カワゲラ	
	4	サワガニ	
	5	ナガレトビケラ	
	6	ヒラタカゲロウ	
	7	ブユ	
	8	ヘビトンボ	
	9	ヤマトビケラ	
水質階級Ⅱ	10	イシマキガイ	
	11	オオシマトビケラ	
	12	カワニナ	
	13	ゲンジボタル	
	14	コオニヤンマ	○
	15	コガタシマトビケラ	
	16	スジエビ	●
	17	ヒラタドロムシ	●
	18	ヤマトシジミ	
水質階級Ⅲ	19	イソコツブムシ	
	20	タイコウチ	○
	21	タニシ	○
	22	ニホンドロソコエビ	
	23	ヒル	○
	24	ミズカマキリ	
	25	ミズムシ	
水質階級Ⅳ	26	アメリカザリガニ	
	27	エラミミズ	
	28	サカマキガイ	
	29	セスジユスリカ	
	30	チョウバエ	

水質階級の判定	水質階級	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
	1．○印と●印の個数		3	3	
	2．●印の個数		2		
	3．合計（1欄＋2欄）	0	5	3	0
この地点の水質階級は			Ⅱ　です		

調査地点の概要（生物を採取した場所の状況について記入して下さい）	
調査河川名	肥田川
調査地点名	肥田橋
昨年度の調査状況（昨年度調査に参加した方のみチェックして下さい）	今年の調査地点は昨年度と同じですか？ □ 同じ場所で調査した 昨年度の水質階級は □ Ⅰ □ Ⅱ □ Ⅲ □ Ⅳ □ ちがう場所で調査した
調査日時	2010 年 8 月 4 日 11 時 開始時刻を24時間で記入して下さい。（午後2時は14時）
天　気	■ はれ □ くもり □ 雨 調査時の天気をチェックして下さい
水　温	28.0 ℃（小数点1桁まで記入して下さい）
川　幅	約 5.0 m 水の流れの幅を記入して下さい（小数点1桁まで記入できます）
生物採取場所	□ 川の中心 □ 上流から見て右岸 ■ 上流から見て左岸 採取した場所をチェックして下さい
水　深	約 20 cm 採取した場所の平均的な水深を記入して下さい
以下は、生物を採取した場所にあてはまるものをチェックして下さい	
流れのはやさ	□ 速い（毎秒60cm以上） □ 普通（毎秒30～60cm） ■ 遅い（毎秒30cm以下）
川底の状態	■ 頭大の石が多い □ こぶし大の石が多い □ 小石と砂 □ コンクリート □ 砂と泥 □ 泥 ■ コケ □ その他
水のにおい	■ においは感じられない □ においが感じられる （ドブ、石油、薬のような不快感のあるにおい）
水のにごり	■ 透明またはきれい □ 少しにごっている □ 大変にごっている

その他の生物（水生昆虫、貝、エビ・カニ類）		魚　類
ヒゲナワカワトビケラ		カワムシ
		アブラハヤ

水草類	鳥　類	その他、気づいたこと

【団体名：土岐市生活学校(3/4)】

調査団体名	土岐市生活学校	複数団体が合同で実施している場合は、代表的な団体名をひとつ記入し、他の団体名は代表的な団体の後ろに（　）をつけて記入して下さい。	
市町村名	土岐市	調査参加人数	22　人

指標生物（見つかった指標生物に○印、数が多かった上位から2種類（最大3種類）に●印をつけて下さい）			
水質階級Ⅰ	1	アミカ	
	2	ウズムシ	
	3	カワゲラ	
	4	サワガニ	○
	5	ナガレトビケラ	
	6	ヒラタカゲロウ	
	7	ブユ	
	8	ヘビトンボ	○
	9	ヤマトビケラ	
水質階級Ⅱ	10	イシマキガイ	
	11	オオシマトビケラ	
	12	カワニナ	●
	13	ゲンジボタル	
	14	コオニヤンマ	●
	15	コガタシマトビケラ	
	16	スジエビ	
	17	ヒラタドロムシ	
	18	ヤマトシジミ	
水質階級Ⅲ	19	イソコツブムシ	
	20	タイコウチ	
	21	タニシ	○
	22	ニホンドロソコエビ	
	23	ヒル	○
	24	ミズカマキリ	
	25	ミズムシ	
水質階級Ⅳ	26	アメリカザリガニ	
	27	エラミミズ	
	28	サカマキガイ	
	29	セスジユスリカ	
	30	チョウバエ	

水質階級の判定	水質階級	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
	1. ○印と●印の個数	2	2	2	
	2. ●印の個数		2		
	3. 合計(1欄＋2欄)	2	4	2	0
この地点の水質階級は			Ⅱ　です		

調査地点の概要（生物を採取した場所の状況について記入して下さい）	
調査河川名	妻木川
調査地点名	鶴里町柿野中沢
昨年度の調査状況（昨年度調査に参加した方のみチェックして下さい）	今年の調査地点は昨年度と同じですか？ □ 同じ場所で調査した 昨年度の水質階級は □ Ⅰ □ Ⅱ □ Ⅲ □ Ⅳ □ ちがう場所で調査した
調査日時	2010 年 8 月 4 日 10 時 開始時刻を24時間で記入して下さい。(午後2時は14時)
天 気	■ はれ □ くもり □ 雨 調査時の天気をチェックして下さい
水 温	21.5 ℃(小数点1桁まで記入して下さい)
川 幅	約 3.5 m 水の流れの幅を記入して下さい(小数点1桁まで記入できます)
生物採取場所	■ 川の中心 ■ 上流から見て右岸 ■ 上流から見て左岸 採取した場所をチェックして下さい
水 深	約 30 cm 採取した場所の平均的な水深を記入して下さい
以下は、生物を採取した場所にあてはまるものをチェックして下さい	
流れのはやさ	□ 速い(毎秒60cm以上) ■ 普通(毎秒30～60cm) □ 遅い(毎秒30cm以下)
川底の状態	■ 頭大の石が多い □ こぶし大の石が多い □ 小石と砂 □ コンクリート □ 砂と泥 □ 泥 ■ コケ □ その他
水のにおい	■ においは感じられない □ においが感じられる (ドブ、石油、薬のような不快感のあるにおい)
水のにごり	■ 透明またはきれい □ 少しにごっている □ 大変にごっている

その他の生物(水生昆虫、貝、エビ・カニ類)		魚 類
ヤゴ		
オタマジャクシ		
水草類	鳥 類	その他、気づいたこと

【団体名：土岐市生活学校（4/4）】

調査団体名	土岐市生活学校	複数団体が合同で実施している場合は、代表的な団体名をひとつ記入し、他の団体名は代表的な団体の後ろに（　）をつけて記入して下さい。	
市町村名	土岐市	調査参加人数	22　人

指標生物（見つかった指標生物に○印、数が多かった上位から2種類（最大3種類）に●印をつけて下さい）			
水質階級Ⅰ	1	アミカ	
	2	ウズムシ	
	3	カワゲラ	
	4	サワガニ	
	5	ナガレトビケラ	
	6	ヒラタカゲロウ	
	7	ブユ	
	8	ヘビトンボ	
	9	ヤマトビケラ	
水質階級Ⅱ	10	イシマキガイ	
	11	オオシマトビケラ	
	12	カワニナ	○
	13	ゲンジボタル	
	14	コオニヤンマ	
	15	コガタシマトビケラ	
	16	スジエビ	●
	17	ヒラタドロムシ	●
	18	ヤマトシジミ	○
水質階級Ⅲ	19	イソコツブムシ	
	20	タイコウチ	
	21	タニシ	○
	22	ニホンドロソコエビ	
	23	ヒル	○
	24	ミズカマキリ	
	25	ミズムシ	
水質階級Ⅳ	26	アメリカザリガニ	
	27	エラミミズ	
	28	サカマキガイ	
	29	セスジユスリカ	
	30	チョウバエ	

水質階級の判定	水質階級	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
	1．○印と●印の個数		4	2	
	2．●印の個数		2		
	3．合計（1欄＋2欄）	0	6	2	0
この地点の水質階級は				Ⅱ	です

調査地点の概要（生物を採取した場所の状況について記入して下さい）	
調査河川名	肥田川
調査地点名	御幸橋
昨年度の調査状況（昨年度調査に参加した方のみチェックして下さい）	今年の調査地点は昨年度と同じですか？ ■ 同じ場所で調査した 昨年度の水質階級は □ Ⅰ ■ Ⅱ □ Ⅲ □ Ⅳ □ ちがう場所で調査した
調査日時	2010 年 8 月 4 日 11 時 開始時刻を24時間で記入して下さい。（午後2時は14時）
天 気	■ はれ □ くもり □ 雨 調査時の天気をチェックして下さい
水 温	26.5 ℃（小数点1桁まで記入して下さい）
川 幅	約 8.5 m 水の流れの幅を記入して下さい（小数点1桁まで記入できます）
生物採取場所	□ 川の中心 □ 上流から見て右岸 ■ 上流から見て左岸 採取した場所をチェックして下さい
水 深	約 20 cm 採取した場所の平均的な水深を記入して下さい
以下は、生物を採取した場所にあてはまるものをチェックして下さい	
流れのはやさ	□ 速い（毎秒60cm以上） □ 普通（毎秒30～60cm） ■ 遅い（毎秒30cm以下）
川底の状態	□ 頭大の石が多い ■ こぶし大の石が多い □ 小石と砂 □ コンクリート □ 砂と泥 □ 泥 ■ コケ □ その他
水のにおい	■ においは感じられない □ においが感じられる （ドブ、石油、薬のような不快感のあるにおい）
水のにごり	■ 透明またはきれい □ 少しにごっている □ 大変にごっている

その他の生物（水生昆虫、貝、エビ・カニ類）		魚 類
ヒゲナワカワトビケラ		
ヤゴ		
水草類	鳥 類	その他、気づいたこと

【団体名：津市役所「水生生物調査学習会」】

調査団体名	津市	複数団体が合同で実施している場合は、代表的な団体名をひとつ記入し、他の団体名は代表的な団体の後ろに（ ）をつけて記入して下さい。	
市町村名	津市長　松田直久	調査参加人数	19　人
調査担当者名	環境保全課　海住愛	連絡先住所　〒514-8611　三重県津市西丸之内23番1号	
担当者連絡先	TEL　059-229-3140	FAX　059-229-3354	E-mail　229-3140@city.tsu.lg.jp

指標生物（見つかった指標生物に○印、数が多かった上位から2種類（最大3種類）に●印をつけて下さい）			
水質階級Ⅰ	1	アミカ	
	2	ウズムシ	
	3	カワゲラ	○
	4	サワガニ	
	5	ナガレトビケラ	
	6	ヒラタカゲロウ	●
	7	ブユ	
	8	ヘビトンボ	●
	9	ヤマトビケラ	
水質階級Ⅱ	10	イシマキガイ	
	11	オオシマトビケラ	○
	12	カワニナ	
	13	ゲンジボタル	○
	14	コオニヤンマ	
	15	コガタシマトビケラ	●
	16	スジエビ	
	17	ヒラタドロムシ	○
	18	ヤマトシジミ	
水質階級Ⅲ	19	イソコツブムシ	
	20	タイコウチ	
	21	タニシ	
	22	ニホンドロソコエビ	
	23	ヒル	
	24	ミズカマキリ	
	25	ミズムシ	
水質階級Ⅳ	26	アメリカザリガニ	
	27	エラミミズ	○
	28	サカマキガイ	○
	29	セスジユスリカ	
	30	チョウバエ	

水質階級の判定	水質階級	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
	1．○印と●印の個数	3	4		2
	2．●印の個数	2	1		
	3．合計（1欄＋2欄）	5	5		2

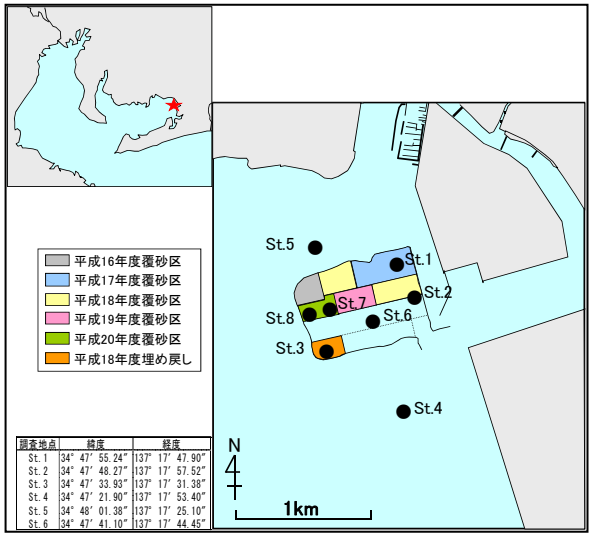
この地点の水質階級は　Ⅰ　です

調査地点の概要（生物を採取した場所の状況について記入して下さい）	
調査河川名	長野川
調査地点名	津市稲葉町地内(稲初橋付近)
昨年度の調査状況（昨年度調査に参加した方のみチェックして下さい）	今年の調査地点は昨年度と同じですか？ ■同じ場所で調査した 昨年度の水質階級は □Ⅰ ■Ⅱ □Ⅲ □Ⅳ □ちがう場所で調査した
調査日時	2010年8月7日9時30分～10時30分 開始時刻を24時間で記入して下さい。（午後2時は14時）
天　気	■はれ　□くもり　□雨 調査時の天気をチェックして下さい
水　温	25．8　℃（小数点1桁まで記入して下さい）
川　幅	20　m 水の流れの幅を整数で記入して下さい
生物採取場所	■川の中心 □上流から見て右岸 ■上流から見て左岸 採取した場所をチェックして下さい
水　深	10～15　cm 採取した場所の平均的な水深を記入して下さい
以下は、生物を採取した場所にあてはまるものをチェックして下さい	
流れのはやさ	□速い（毎秒60cm以上） ■普通（毎秒30～60cm） □遅い（毎秒30cm以下）
川底の状態	□頭大の石が多い　■こぶし大の石が多い □小石と砂　□コンクリート □砂と泥　□泥 ■コケ　□その他
水のにおい	■においは感じられない □においが感じられる （ドブ、石油、薬のような不快感のあるにおい）
水のにごり	■透明またはきれい □少しにごっている □大変にごっている

その他の生物（水生昆虫、貝、エビ・カニ類）		魚　類
ナベブタムシ	サナエトンボのヤゴ	ハゼ（カワヨシノボリ）
チラカゲロウ	オナシカワゲラ	カワモツ
シロタニガワカゲロウ	カワムシ	
ヒゲナガカワトビケラ	ミマゲンゴロウ	
アオヒゲナガカワトビケラ	マシジミ　、　モノアラガイ　、貝の卵	
水草類	鳥　類	

【団体名：愛知県建設部】

◆調査地点



調査地点	緯度	経度
St.1	34° 47′ 55.24″	137° 17′ 47.90″
St.2	34° 47′ 48.27″	137° 17′ 57.52″
St.3	34° 47′ 33.93″	137° 17′ 31.38″
St.4	34° 47′ 21.90″	137° 17′ 53.40″
St.5	34° 48′ 01.38″	137° 17′ 25.10″
St.6	34° 47′ 41.10″	137° 17′ 44.45″

図　調査地点

（写真　左・中：調査海域から北側方向　右：調査海域から東側方向）

◆調査結果

潜水作業により25cm×25cmの範囲で海底の泥を採取しました。採集した泥は1mm目合いのふるいにかけて、生物の種類と個体数を調べました。

底生生物の量(個体数)が多かった地点は St.8、St.4、St.5、St.7 の順で、いずれも底が礫の地点でイソギンチャク類やニマイガイ類が確認されています。底が砂または泥の地点ではSt.3、St.1、St.2・St.6 の順で多く、ゴカイ類が各地点で多くを占め St.1 ではニマイガイ類も確認されました。無生物の地点はありませんでした。

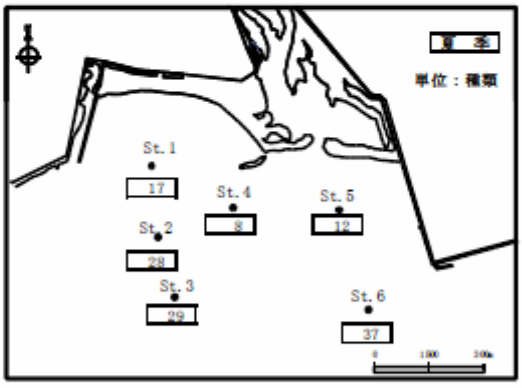
No.	門	綱	目	科	種	和名	St.1		St.2		St.3		St.4		St.5		St.6		St.7		St.8	
							個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	刺胞動物	花虫	イソギンチャク	―	Actiniaria	イソギンチャク目							767	42.50	267	18.42			42	11.17	1100	117.67
2	環形動物	ゴカイ	サシバゴカイ	カギゴカイ	Sigambra hanaokai	ハナオカカギゴカイ	58	0.08			33	0.08	50	0.08	92	0.25	8	+	8	+	50	0.08
3			イソメ	ギボシイソメ	Scoletoma longifolia	カタマガリギボシイソメ	8	+	8	0.08	83	0.33	150	1.25	417	1.67			250	1.67	75	0.42
4			スピオ	スピオ	Paraprionospio patiens	シノブハネエラスピオ	25	0.08							8	0.08			8	+	8	0.08
5					Paraprionospio cordifolia	フクロハネエラスピオ															8	+
6			チマキゴカイ	チマキゴカイ	Owenia sp.	（チマキゴカイ科）													8	0.08		
7			ケヤリ	カンザシゴカイ	Serpulidae	カンザシゴカイ科															8	0.42
8	軟体動物	マキガイ	ニナ	カリバガサガイ	Crepidula onyx	シマメノウフネガイ															8	1.25
9			ブドウガイ	スイフガイ	Cylichnatys angustus	カミスジカイコガイダマシ							8	+	42	0.17			17	0.08		
10		ニマイガイ	フネガイ	フネガイ	Scapharca kagoshimensis	サルボウガイ							8	1.42					8	16.08		
11			イガイ	イガイ	Mytilus galloprovincialis	ムラサキイガイ															8	0.08
12			ハマグリ	マルスダレガイ	Phacosoma japonicum	カガミガイ													17	13.92		
13				ニッコウガイ	Macoma incongrua	ヒメシラトリガイ	8	0.75					8	17.83	50	35.83					17	2.58
合計（個体数・湿重量）							99	0.91	8	0.08	116	0.41	991	63.08	876	56.42	8	+	358	43.00	1282	122.58
種類数							4		1		2		6		6		1		8		9	

【団体名：中部地方整備局四日市港湾事務所（1/3）】

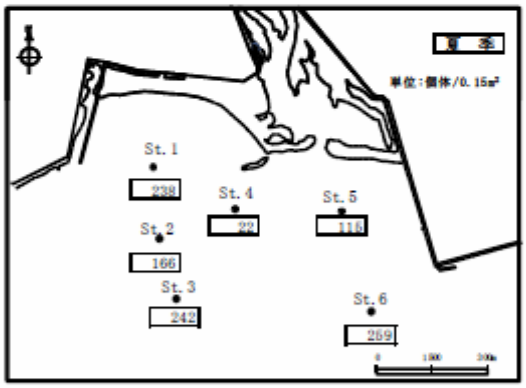
4）底生生物調査結果

項目	調査点	St. 1	St. 2	St. 3	St. 4	St. 5	St. 6	合計	平均
種類数	腔腸動物門	－	－	1	－	－	－	1	
	軟体動物門	7	8	5	1	3	11	18	
	環形動物門	6	15	18	3	6	20	39	
	節足動物門	3	3	3	4	2	3	9	
	棘皮動物門	－	1	1	－	－	2	2	
	その他	1	1	1	－	1	1	1	
	合計	17	28	29	8	12	37	70	
個体数（個体／0.15m^2）	腔腸動物門	－	－	1	－	－	－	1	0.2
	軟体動物門	76	57	52	1	18	139	343	57.2
	環形動物門	135	79	167	11	90	104	586	97.7
	節足動物門	23	25	19	10	6	7	90	15.0
	棘皮動物門	－	1	1	－	－	8	10	1.7
	その他	4	4	2	－	1	1	12	2.0
	合計	238	166	242	22	115	259	1,042	173.7
湿重量（g／0.15m^2）	腔腸動物門	－	－	0.24	－	－	－	0.24	0.04
	軟体動物門	9.74	2.48	0.58	0.00	3.14	2.50	18.44	3.07
	環形動物門	0.89	1.68	2.50	0.09	0.79	1.31	7.26	1.21
	節足動物門	0.09	0.25	0.11	0.02	0.01	0.01	0.49	0.08
	棘皮動物門	－	0.01	0.03	－	－	0.14	0.18	0.03
	その他	0.01	0.02	0.01	－	0.00	0.00	0.04	0.01
	合計	10.73	4.44	3.47	0.11	3.94	3.96	26.65	4.44

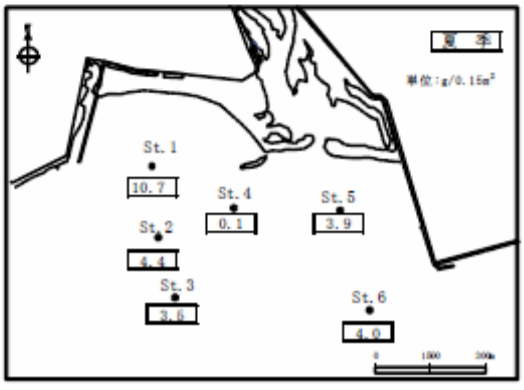
注）1.「－」は出現していないことを示す。
2. 種類数の合計欄は総種類数を示す。
3. 個体数の合計欄は0.9m^{2}当たりの個体数を示す。
4. 湿重量の合計欄は0.9m^{2}当たりの湿重量を示す。



＜種類数＞



＜個体数＞



＜湿重量＞

【団体名：中部地方整備局四日市港湾事務所(2/3)】

表(1)　　底生生物の調査結果（夏季）

平成22年8月19日調査
単　位：個体、g／0.15㎡

調査点				St．1		St．2		St．3		St．4		St．5		St．6		平均	
水深（m）				0.8		3.5		5.5		0.6		0.6		5.1		—	
底質の状態				礫混じり砂		砂混じりシルト		砂混じりシルト		礫混じり砂		礫混じり砂		砂混じりシルト		—	
番号	門	綱	種名	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	腔腸動物	花虫	ハナギンチャク科					1	0.24							0.2	0.04
2	紐形動物		紐形動物門	4	0.01	4	0.02	2	0.01			1	0.00	1	0.00	2.0	0.01
3	軟体動物	腹足	サザナミツボ	2	0.00					1	0.00					0.5	0.00
4			アラムシロ	1	0.65	8	1.83							2	0.83	1.8	0.55
5		斧足	サルボウガイ			1	0.01							5	0.03	1.0	0.01
6			ホトトギスガイ	8	0.06	2	0.02							22	0.13	5.3	0.04
7			トリガイ					1	0.00					3	0.07	0.7	0.01
8			ヤマトシジミ			1	0.01					3	1.36			0.7	0.23
9			シオフキ			1	0.01							2	0.02	0.5	0.01
10			チヨノハナガイ			1	0.00	9	0.05					49	0.84	9.8	0.15
11			マルヘノジガイ											1	0.00	0.2	0.00
12			オチバガイ	1	0.66											0.2	0.11
13			イソシジミ	9	0.59							4	0.48			2.2	0.18
14			オウギウロコガイ											1	0.01	0.2	0.00
15			シズクガイ					39	0.47					49	0.39	14.7	0.14
16			マテガイ					1	0.00							0.2	0.00
17			ウズザクラ					2	0.06					3	0.09	0.8	0.03
18			サクラガイ			1	0.01									0.2	0.00
19			アサリ	54	7.75	42	0.59					11	1.30	2	0.09	18.2	1.62
20			ソトオリガイ	1	0.03											0.2	0.01
21	環形動物	多毛	マイヅルチロリ			2	0.06									0.3	0.01
22			チロリ					7	0.81					5	0.13	2.0	0.16
23			マキントシチロリ	1	0.45											0.2	0.08
24			Glycinde sp.			1	0.01	2	0.01					6	0.03	1.5	0.01
25			カタマガリギボシイソメ			15	0.30	102	1.19					55	0.76	28.7	0.38
26			ハヤテシロガネゴカイ					1	0.01							0.2	0.00
27			ミナミシロガネゴカイ			4	0.01	3	0.01							1.2	0.00
28			コケゴカイ	4	0.07	1	0.00			2	0.03	34	0.40			6.8	0.08
29			ヒメヤマトカワゴカイ							3	0.02	8	0.04			1.8	0.01
30			ヤマトカワゴカイ	73	0.32	16	0.94			6	0.04	8	0.32			17.2	0.27
31			アシナガゴカイ									3	0.01			0.5	0.00
32			オウギゴカイ			10	0.31									1.7	0.05
33			ゴカイ科			1	0.01									0.2	0.00
34			スゴカイイソメ					1	0.00					2	0.00	0.5	0.00
35			Eteone sp.									1	0.00			0.2	0.00
36			Phyllodoce sp.					1	0.00							0.2	0.00
37			ハナオカカギゴカイ			19	0.03	1	0.00					1	0.00	3.5	0.01
38			Asabellides sp.											1	0.00	0.2	0.00

【団体名：中部地方整備局四日市港湾事務所(3/3)】

表(2)　　底生生物の調査結果（夏季）

平成22年8月19日調査
単　位：個体，g／0.15㎡

調査点				St．1		St．2		St．3		St．4		St．5		St．6		平均	
水深（m）				0.8		3.5		5.5		0.6		0.6		5.1		－	
底質の状態				礫混じり砂		砂混じりシルト		砂混じりシルト		礫混じり砂		礫混じり砂		砂混じりシルト		－	
番号	門	綱	種名	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
39	環形動物	多毛	Capitella capitata			3	0.00									0.5	0.00
40			Heteromastus sp.	4	0.01	2	0.01									1.0	0.00
41			Spiochaetopterus sp.					1	0.00					1	0.00	0.3	0.00
42			Chaetozone sp.											2	0.04	0.3	0.01
43			ミズヒキゴカイ											1	0.00	0.2	0.00
44			Cossura sp.											3	0.00	0.5	0.00
45			Tharyx sp.			2	0.00	14	0.09					6	0.03	3.7	0.02
46			ハボウキゴカイ科											1	0.00	0.2	0.00
47			モロテゴカイ					10	0.04					4	0.02	2.3	0.01
48			Magelona sp.					2	0.01					1	0.01	0.5	0.00
49			ナガオタケフシゴカイ					2	0.14					2	0.06	0.7	0.03
50			ウミイサゴムシ											2	0.03	0.3	0.01
51			Chone sp.					2	0.03							0.3	0.01
52			スベスベハネエラスピオ											1	0.03	0.2	0.01
53			シノブハネエラスピオ			1	0.00	2	0.03					5	0.13	1.3	0.03
54			Polydora sp.			1	0.00									0.2	0.00
55			ヤマトスピオ	23	0.02							36	0.02			9.8	0.01
56			ドロオニスピオ	30	0.02	1	0.00									5.2	0.00
57			Pseudopolydora sp.					1	0.00							0.2	0.00
58			Scolelepis sp.					1	0.01					2	0.01	0.5	0.00
59			スズエラナシスピオ					14	0.12					3	0.03	2.8	0.03
60	節足動物	甲殻	イソコツブムシ属							3	0.01	2	0.01			0.8	0.00
61			ドロクダムシ属			1	0.00									0.2	0.00
62			ニホンドロソコエビ	21	0.03	12	0.02	7	0.01	1	0.00			5	0.01	7.7	0.01
63			メリタヨコエビ属					1	0.00	5	0.00	4	0.00			1.7	0.00
64			テッポウエビ属	1	0.00											0.2	0.00
65			ムラサキエビ属					11	0.10							1.8	0.02
66			エビジャコ属	1	0.06											0.2	0.01
67			トリウミアカイソモドキ			12	0.23			1	0.01			1	0.00	2.3	0.04
68			ヨコナガモドキ											1	0.00	0.2	0.00
69	棘皮動物	クモヒトデ	カキクモヒトデ			1	0.01	1	0.03					7	0.05	1.5	0.02
70		ナマコ	トゲイカリナマコ属											1	0.09	0.2	0.02
合計				238	10.73	166	4.44	242	3.47	22	0.11	115	3.94	259	3.96	173.7	4.44
出現種類数				17		28		29		8		12		37		70	

注）出現種類数の平均欄は、総種類数を示す。

4. 感想等

一斉モニタリングの参加者から感想を頂きました。

◆参加者名、団体名：NPO 法人糸貫川をきれいにする会

◆主な観測地点：糸貫川

前夜の降雨によりやや水位が高い。上流部より中流部まではささ濁り状態であった。最下流部は浮遊物が多く水ワタも目立った。ゴミは、最下流部を除いてほとんど目につかない。（最下流部にはオートバイが捨てられていた。）

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：グループ「かすみ草」

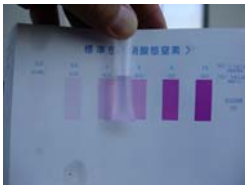
◆主な観測地点：堀川

前日の雨や満潮の潮止りのためか、いままで調査した中で水質や透明度が 1 番悪かったです。木の葉や枝等も多く浮いていました。水生生物も見えませんでした。ぐるーぷ“かすみ草”一同楽しく調査させていただきました。今後ともよろしくお願いします。

◆参加者名、団体名：中部地方整備局　海洋環境・技術課

◆主な観測地点：名古屋港

◆観測地点及び観測の様子



◆参加者名、団体名：小野氏（個人）

◆主な観測地点：木曽川

初めての事で、暑いのと風が強いので大変でした。でもいい経験ができました。

◆参加者名、団体名：小塩通信株式会社

◆主な観測地点：長良川

川岸まで行く際、草むらが多く歩きづらかったので、次回はカマを持参して行くようにしたいです。川はきれいに見えましたが、水質調査の際、浅瀬が長かったので、バケツの水を汲むのに苦労しました。

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：小林氏（個人）

◆主な観測地点：宇連川、名倉川

- 調査地点（宇連川板敷）の上流は山間部であるが、集落が点在し温泉などの観光地。調査地点の直上流は河川プールが整備されており、調査当日も多数の水遊び客が滞在。水が少しぬるい感触。
- 調査地点（宇連川亀淵）の上流は、宇蓮川本川の最上流部。国道沿いを流下しているが、調査地点より上流に集落・事業所はない。上流に天竜川の佐久間ダムからの導水管の放水口があるが、調査日には放水されていない。流路のほとんどが木陰に覆われており、道路付近の気温が 34℃程度あったが、水温は 19℃と痛いほどの冷たさを感じる。
- 調査地点（名倉川寺屋敷川）より上流は少しの田があるが、人家からの排水はない様子。
- 調査地点（名倉川名倉橋）より上流は山間部であるが、田園地域。農村集落排水処理が普及しており、家庭排水からの負荷は少ないと思われる。

◆参加者名、団体名：中部地方整備局　三河港湾事務所

◆主な観測地点：三河港

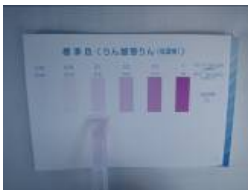
海水の色は薄茶ぽい色で、かつ透視度も 50cmしかなく、いかにも汚い海水でしたが、パックテストで COD を計ってみたら 4mg/L でしたので、水の色とそれに含まれている有機物の量は必ずしも一致しないことがわかりました。

◆参加者名、団体名：第四管区海上保安本部　衣浦海上保安署

◆主な観測地点：衣浦港

当署の業務として定期的に海水調査は実施しているところですが、今後も継続的かつ頻度を増やすことでより有意義なものになると思います。

◆観測地点及び観測の様子

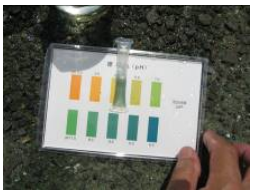


◆参加者名、団体名：第四管区海上保安本部　名古屋海上保安部

◆主な観測地点：名古屋港ガーデン埠頭

海水が濁っている。夏の時期なので特に茶色がかっており、きれいとはいえなかった。冬の時期にもモニタリングしたら比較ができる。

◆観測地点及び観測の様子



◆参加者名、団体名：第四管区海上保安本部　巡視艇しまなみ

◆主な観測地点：伊良湖港

伊良湖港の海水は名古屋港の海水と比べ、かなり透明度があると感じた。しかし波打ち際にはペットボトル等のゴミが多々漂着しており、個人や企業の意識ですぐに環境が変化する恐れがある港だとも感じとれた。今回のモニタリングを通して、伊良湖港の水質や生物の観察や環境を知ることが出来たのは身近な環境を守る上で大変重要なことだと感じた。今後ともモニタリングを続けていくべきだと思った。

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：第四管区海上保安本部　三河海上保安署

◆主な観測地点：三河港

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：第四管区海上保安本部　中部空港海上保安航空基地

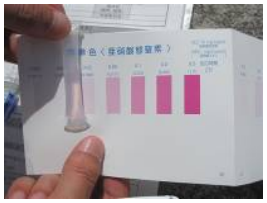
◆主な観測地点：常滑港

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：第四管区海上保安本部　四日市海上保安部

◆主な観測地点：四日市港

◆観測地点及び観測の様子



◆参加者名、団体名：第四管区海上保安本部　鳥羽海上保安部

◆主な観測地点：鳥羽港

水質調査実施場所付近は、定期船、観光船等が着桟する桟橋もあり、観光客等からもきれいな海だなとの声が上がる中での調査であり、各項目で異常な数値示すこともなく、無色透明な澄んだ水であることが再認識できた。

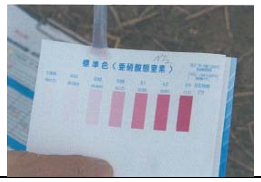
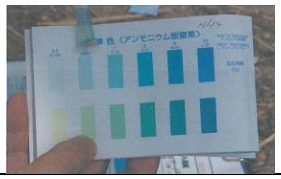
◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：豊川流域圏を学ぶクループ

◆主な観測地点：豊川

・　私たちは、「豊川・渥美・前芝フォーラム」（豊川流域圏通貨バンク協議会・みなと塾主催）に参加し、調査地点周辺の漂着ゴミ拾い、干潟の観測を行っています。今年は愛知県でCPO10開催年ということで一斉モニタリングに参加しました。湾岸域の小中学校が「豊川・渥美・前橋フォーラム」に関心を示し、海岸の環境学習に取り組むようです。この一斉モニタリングもこの環境学習にふさわしいと思います。生物多様性を支える地域づくりの一環としても一斉モニタリングを行うと良いと思います。

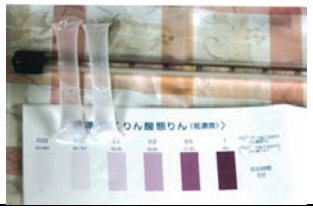
◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：鯱城・堀川と生活を考える会

◆主な観測地点：堀川

◆観測地点及び観測の様子



◆参加者名、団体名：株式会社大滝工務店

◆主な観測地点：四日市港

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：津松阪港管理分所

◆主な観測地点：金剛川

・　金剛川河口では、4 月の大潮の干潮時、地域の方が潮干狩りに大勢押し寄せ、アサリを採取しています。足元にエイ・カレイの稚魚を目視でき、豊かな海を印象づけますが今回の簡易調査を行い驚きです。梅雨時期の雨の中、釣り人はセイゴを釣り、真夏の照りつける暑さをコメツキカニを餌にカイズ釣りをする人で賑わいます。防波堤からキスを釣る釣り人が早朝から場所取りをしています。台風の合間を縫って川が増水するとセイゴ釣り、照りつけるとカイズ・キス釣り。秋になると多くの家族連れがハゼを狙って釣りに来ます。干潮時にアサリ採取。満潮時には釣り人が多く親水性・水に親しむ憩いの場になっていますが、1kmほど上流の大口漁港周辺は生活ゴミ・不法放棄の家電商品で海を汚しています。台風時期のヨシ群の周りはペットボトル・ビニール・生活ゴミでいっぱいに成ります。上流から運ばれてきた生活ゴミが潮汐の影響かゴミ溜まりを作りヨシ群に集積します。環境学習を子ども達から環境問題を考えることの重要性を痛感する。

・　干潮時の干潟は至る所で気泡が発生し匂いがします。湧き水が見当たらず、ゴカイ類の穴なのか、硫化水素の穴なのか判らないが、無数の穴を確認できます。動植物の存在は確認できませんでした。周辺では不法投棄のオートバイ・家電製品・タイヤ・流木・竹等が現れ、上流からの浮遊物か地域住民の不法投棄か判らないがモラルのなさを感じます。単車の燃料・潤滑油が流れ、家電商品の基盤・カバー等は自然には返りません。流木や竹等も、川や海の浄化能力を超え川や海は汚れるばかりです。中州や岸壁にカキ等の貝類も少なく、干潮時の金剛川河口は驚きです。11 月中旬に冬鳥が例年渡って来ますが、環境悪化は進んでいます。シギ・サギ類も干潟の動植物を餌に羽を休めに来ますが、干潮時の干潟は動植物の生態が観られません。一人ひとりが考えないといけない時期に来ているような気がします。

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：NPO 法人阿漕浦友の会

◆主な観測地点：阿漕浦

海岸採取の海水は気象に左右されがちですので、

1.年 1 回の調査ではどうかと思います（数回）

2.サンプリング場所 2～3km 離れても同じ結果（回数でカバー）

3.生物への影響は塩分濃度が大きいと思います。

4.生物調査は干潮時が適当と思います。

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：津松阪港管理分所

◆主な観測地点：阪内川

・ 上流に堰が在りますが、住宅街を流れる阪内川は市民の憩いの場になっています。アユの遡上が見られ、河口の水質は見た感じでは良好です。しかし、注意事項の COD は川の範囲を越え、NH_4-N・PO_4-P は少し多い。ボラ・ハゼの稚魚が群れをなして泳ぎ、やすらぎを覚えます。初秋からハゼの数釣りが親しまれ家族連れが多く訪れます。検体を採取した平尾橋付近ではシジミ取りの高齢者が多く、シギ・サギ類が人の気配を感じながら忙しそうにカニや稚魚を捕食しています。昔からの風景を残しゴミや不法投棄が少ない川です。しかし、干潮時に干潟に入ると本流近くはヘドロが多く脚を取られてしまいます。コメツキカニ・チゴカニも河口に追いやられ、シオマネキは希少動物に登録されています。最低限今ある風景を残す、環境学習を学校教育で行って欲しい。

・ 毎日見ている阪内川ですが、試薬を持ち、検体を採取する調査は水質を調べる以外に川の環境を意識します。8 月 3 日の満潮時に採取した水質と、7 日の干潮時の水質は大きく変らないが、水量や流れの速度、透明度など目視でできる変化が異なっていました。意識しながら川・周辺を観る大切さを感じました。不思議さを感じる取る事が環境変化を感じ取ることです。楽しむ＞感じる＞調べる重要性は環境学習に必要なアイテムです。子ども達に知識ばかりを詰め込み、自然を感じ取る作業が疎かになっているのではないだろうか？子ども達の感じかたは多種多様ですが、楽しむきっかけ作りを指導し、安全・安心に注意しながら自由に遊ばし、不思議さを感じ取る体験学習の必要性を再確認しました。干潮時の阪内川はシジミ取りの高齢者が会話を楽しみ集まっています。川下では釣りの餌になるカニを採取する方も多くいました。自然を楽しんでいます。

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：雲出川フロンテー

◆主な観測地点：出雲川

伊勢湾での漁獲が問題なので、大いに調査する必要がある。しかし、汚染の原因者の究明がなされない点につなげてもらいたい。この点では、漁業補償等の漁師も同じである。その辺の理解も望みたい。

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：津松阪港管理分所

◆主な観測地点：松阪港

物流港ですが釣り人も多く、地域の高齢者が井戸端会議で賑わう所です。金剛川・阪内川に挟まれ、三渡川の水量に左右されながら港内の潮が動いています。企業と松阪浄水場の排水で潮目ができ、回遊魚(イワシ・アジ・サヨリ・キンツ・サヨリ)が釣り人を賑わせています。回遊魚を狙うスズキが、時折釣り竿を奪い地域住民の伝説に成ります。撒餌にチヌが居付き、インターネット情報が大阪・奈良・京都・滋賀のアングラーも呼び寄せ生活ゴミを置いて行きます。地域の高齢者が昔の釣果と風景を懐かしく話され、松阪港の今と昔を知ることが出来ます。漁師の高齢化と海苔の養殖業者の衰退は、伊勢湾の環境変化か社会現象か判りませんが、四季折々釣れる魚を老人達が会話の話題になれば良いと思います。好奇心旺盛な老人が、水質調査を見て話しかけてきます。何も説明できない自分が情けなく、汚れの状態を説明できるように勉強したいと思います。

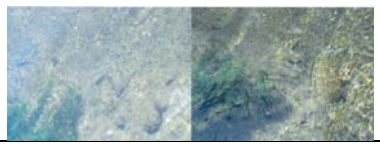
◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：フェザー安全剃刀株式会社関工場

◆主な観測地点：関川

この度、伊勢湾再生に向けた取組みの一環として一斉モニタリングに参加させて頂きました。私共に業務上少なからず水を利用し公共用水域に排水している関係上、処理及び測定等管理を徹底し対応致しております。しかしながら、このように自ら河川の水質を測定する機会というものが無い為、大変興味深く参加させて頂きました。測定当日の河川の概要ですが川幅約 3～4m 水深約 50cm で両岸ともにコンクリートにて整備された状況です。コンクリートの隙間からは草木が生えていました。ここ数日の暑さからか川底の石にはコケ状の物も見えましたが、水に関しては非常に澄み流れも穏やかで、小さな魚が数匹泳いでいました。測定中、時折水草や小さな流木の類が流れてきましたが、いわゆるゴミ類が流れてくることはありませんでした。パックテスト付属の取扱説明書に従い各項目、慎重に実施いたしましたが比較的低く表示されました。本日調査を行いましたこの河川、そして最終的に流入する伊勢湾を汚さない為だけでなく、再生していくために今後も排水には細心の注意を払い、絶対に水質事故を起こしてはならないという企業責任を再度認識致しました。

◆観測地点及び観測の様子



◆参加者名、団体名：ゲンゴロウ会

◆主な観測地点：荒池

今回は昨年と比較して異常気象の関係か、も類の繁殖が少なく、水温のためか釣り人の話では魚が釣れなくなったとのこと。鳥類も皆無で鳴き声も聞けなかった。蝉しぐれのみ。今年は異常としか考えられない。

◆参加者名、団体名：亀山の自然環境を愛する会、地球クラブ

◆主な観測地点：鈴鹿川（河口より 26km 地点）

・ 降水量が少なく底は茶色に近い藻が石にこびりついている。岸辺の砂地にもこれが増水により急激に下流へ流れ出し、伊勢湾の有機物汚染を心配する。

・ 魚はカワムツとオイカワ、シマドジョウ、ヨシノボリ、スジエビがこの地点を占めるが、オイカワがほとんど見られず、更に上流の鈴鹿川・加太川合流地点（ここで鈴鹿川となる）まで登っていることが判った。

・ 河（川）水面の泡が消えにくく洗剤だろうか。

・ ゴミでプラスチック袋が気になる。

・ 活動仲間である「亀山の自然環境を愛する会」と一緒に調査を実施できたので、ポイントをずらしたサンプリングができて一地点について計 4 個のデータが得られた。

・ 上・中流域で調査をしたので、下流である河口域の数値が知りたい。

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：亀山の自然環境を愛する会、地球クラブ

◆主な観測地点：鈴鹿川（河口より 11.7km 地点）

・ 降水量が少なく茶色に近いノリ状藻が多いが、流れている所が多く 26km 地点より底部にへばりつく藻は少なかった。しかし岸辺、よどみは 26km 地点より藻ははるかに多くヘドロ状態になっている。

・ カワムツ、オイカワは採れなかった。シマドジョウも

・ 川水面の泡の大きさは大で消えにくくなっていた。

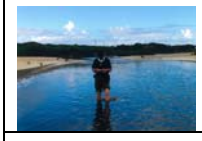
・ ゴミは川に入る者のモラルの低さを感じる。

・ 魚形あるが非常に少ない。

・ 飲料に汲み上げられるゾーンである中流域だが、梅雨明け後の降水量の少なさを反映して水位は低く、また流れ自体が大きく変わっていて驚いた。

・ 今回の参加を通じて、“渇水期”での調査の重要性が体感できた。

◆観測地点及び観測の様子



◆参加者名、団体名：桑名市立光陵中学校

◆主な観測地点：大山田川

比較的きれいな川と考えられている町屋川も同じに調査した。結果は、町屋川とほぼ同じできれいな川であることが分かった。大山田川は、地下水が主な水源と言われている。そのためか、きれいであったが、水量が少なく十分気をつけていないと汚い川になってしまう恐れがある。

◆参加者名、団体名：高年大学 OB 水質調査グループ

◆主な観測地点：堀川

1.水質関係　水質調査の採水地点は猿投橋直下の堰上部・川幅中央地点で採水した。水深や約10cm。川底にはヒルムシロ科の「やなぎ藻」が光合成によるものか鮮やかな緑色をしてはえていた。採水したビーカーの色は無色であるが、採水地点すぐ上流の砂地面の色は淡黄灰色透明であった。水質は COD が 6.0（21 年度は 8.0）を示し、全般的には昨年度に比べて若干低く良いが、窒素系またリン系はほぼ同レベルであった。

2.モニタリング地点の様子　鯉が 2 匹の他は小さい魚は見かけなかった。また水生昆虫類も見当たらなかった。左岸側はイタドリが繁茂して、茂みに隠れて（推測）昆虫類はこの時点では飛来がみられなかった。川面には時々木の葉が流れる程度である。昆虫が見られなく残念でした。

3.ゴミについて　特に右岸側の猿投橋から上流の桜の木 1～2 本目の土手内には定常的にゴミの投棄が見られる。また住宅が接近しており、この一帯は桜の葉が生い茂り、今夏は草が繁茂して一見外観的には見えないが「よく見るとゴミがある」と判断した。

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：東洋建設株式会社名古屋支店

◆主な観測地点：日光川

・　昨年度に引き続き参加しました。今年は場所を変更し、ラムサール条約で環境保全が重要視されている藤前干潟付近で候補地を選定しました。

・　猛暑が続いた影響か、気温 38℃、水温 31℃という条件において水の透明度は悪く、COD8mg/l と高い値を示した。日光川水閘門が閉じており閉鎖性水域となっていることも影響していると思われる。

・　今後も一斉モニタリングに参加することによって水質と環境の問題に関わりを続けていきたい。

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：日本工営株式会社名古屋支店

◆主な観測地点：柳生川、殿田川、山中川

◆観測地点及び観測の様子

写真１．地点の状況（殿田川）

写真２．地点の状況（柳生川）

写真３．地点の状況（山中川）

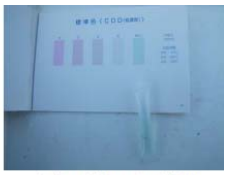



写真４．簡易テストの実施状況

◆参加者名、団体名：NPO 法人藤前干潟を守る会

◆主な観測地点：庄内川

①透視度が 27cm と低い数値が出た。7/29 と 30 に雨が降ったためその影響が出たと思われる。名古屋市環境局の関係で年 4 回測定しているが 4/16：52cm、7/9：62cm あった。

②庄内橋から水面を見ると水の色が灰黄緑に見え、プランクトンの豊さを感じた。

③貧酸素が心配されている伊勢湾流域ですが溶存酸素の測定もご検討ください。

④定期的に水質、生物、ゴミなど見ておりますと良い（きれい）川であって欲しいと思い、上流から海への繋がりを感じます。

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：NPO 法人藤前干潟を守る会

◆主な観測地点：新川

①景色から見たイメージからか庄内川と比べ新川は汚れている感がありますが、名古屋市環境局の関係で 4 年目の水質測定では、透視度、COD 共に新川の方が良好です。上流の清須市（旧新川町）の「新川をよみがえらせる会」の皆さんが定期的に清掃活動や EM 菌溶液を投入していただいている事があるのかもしれません。

②上流・中流・下流域の皆さんと交流をもち「藤前干潟クリーン大作戦」や「新川クリーン大作戦」を継続していきたいと思っております。

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：山崎川グリーンマップ

◆主な観測地点：山崎川

今年は山崎川源流の猫が洞池からの水が完全に止まっている。（導水管破損のため）水ゴケがフワフワと汚く感じた。また、例年一番多いオイカワが全くといっていいほどいなくなってしまった。ブルーギルとコイの稚魚が激増

◆参加者名、団体名：松並木つくり隊

◆主な観測地点：政成魚港、筏川、日光川

日光川の中の一部で実施してしまった。来年度はもっと海域に近い所でやりたい。

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：大井まちづくり協議会　スナメリの海事業

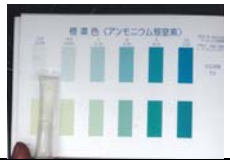
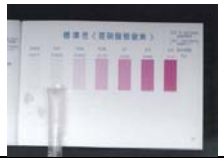
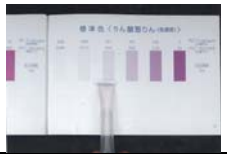
◆主な観測地点：大井川、鳶ヶ崎海岸、海田海岸

今回モニタリングに参加して、海が以前よりきれいになっていた。今後も参加したい。

◆参加者名、団体名：尾石氏（個人）

◆主な観測地点：加瀬田川、廿屋川、川浦川

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：伏見 22

◆主な観測地点：山崎川

上・中・下流と調査して川の水質を知る必要がある。

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：NPO 法人木曽三川ごみの会　桑名市立伊曽島小学校 5,6 年

◆主な観測地点：長良川

今回のモニタリングは、小学生の環境学習の一環として会員代表者が学校等に働きかけたところ、学校関係者も前向きに検討し今回の合同調査が設定されました。さらに桑名市役所長総合支所環境課に協力していただき環境啓発資料、児童に対する事故防止安全用具等の準備（ライフジャケット、手袋等）等々積極的に支援をして下さいました。児童も伊勢湾を含め流域河川の人たちが環境問題に取組んでいることを知り環境に対する意識を強くしたように感じた。

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：四日市市環境学習センター・水沢地区市民センター

◆主な観測地点：内部川

思ったより汚れている。もう川の水が飲めない。NH_4-N や COD が高かったのは肥料が影響している？

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：小川氏（個人）

◆主な観測地点：三河湾

貧酸素水塊が発生しやすい数機の近くであったが、思っていたよりも水はきれいであると感じた。

◆参加者名、団体名四日市市環境学習センター・水沢地区市民センター

◆主な観測地点：鹿化川

思ったより汚かった。魚がすんなり入る。意外と魚が見つかった。カダヤシがいるかと思ったがいなかった。ホタルの幼虫やカワニナがとれて嬉しかった。

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：「あいちの海」グリーンマップ

◆主な観測地点：三河湾

- 透明度がなく、先が見えずにシュノーケルをするのが怖かったにもかかわらず、水質調査の結果がよかった。理由がよくわからない。
- 昨年より始めたウミホタル調査においては、捕獲成功。（ただし、場所については乱獲の恐れがあるのでふせてほしい。知多自然観察会からも要請を断った）
- 数年前から暑さのピーク時には海中にもぐっていたムタサキイガイの姿が確認できなかった。貝殻のみ。ニシについては例年になく多かった。

◆参加者名、団体名：「きれいな伊勢志摩づくり」連絡会議

◆主な観測地点：伊勢湾、神島内

伊勢湾内の離島（神島）で漂流・漂着ごみの調査と併せて水質調査を行いました。水質調査においてCOD の値に幅があるのは、外洋から波が寄せていたため採水の状態によりプランクトンや砂粒が混入したことによるものと思われます。海水自体は非常に清澄でした。漂流・漂着ゴミについては、1 ヶ月程前に地元で清掃されたとのことで量はそれほど多くありませんでした。種類としては、様々な製品のプラスチック破片と発砲スチロールの破片が多く、他の種類のゴミは少量でした。

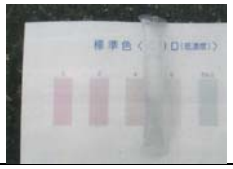
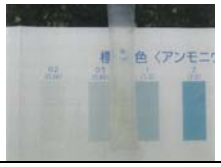
◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：富士ゼロックスマニュファクチュアリング株式会社鈴鹿事業所　自然愛好会

◆主な観測地点：金渓川

上流域は更に渇水の影響が大きく、水がよどんでいる場所が多数あった。流れのある場所を選んで測定した。この場所に関しても継続的な測定を行いたい。

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：可児市めだかの楽校

◆主な観測地点：可児川

7 月 31 日に実施した可児川の調査には 7 人が参加しました。10：30 から 1 時間、水質や水生生物調査を行いました。慣れ親しんできた“可児川”とは一変した川底、川岸、水辺の様子に私たちは驚きました。大量の土砂、大小の石がビッシリと敷き詰められている可児川に、あらためて 7 月 15 日の豪雨の凄まじさを感じました。この影響で、いつもはたくさん見ることができる水生生物のカワニナやヒラタドロムシなどが、わずかしか棲息していませんでした。可児川流域の森の保水力、水田・ため池のあり方、開発のあり様など防災という点からも考えさせられた今回の水質調査でした。

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：扇川を愛する緑の会

◆主な観測地点：扇川

水の色はほぼ透明（橋からの見た目、ビーカー中）、透視度も 100cm とかなり良い結果を期待したが、COD 値が普段より高かったのが残念でした（普段 3.0～4.0）。中潮で汐の引きが大きく水位が低かったため採水時に川底の汚れも一緒に採水してしまったのでしょうか？今年も 5 月初旬に川掃除を行いました。あいかわらず自転車の投げ込みが多く10 台ほど引き上げました。ゴミの量も前回と同じく軽トラック 3 台分強となりました。色々な団体の方が「扇川をきれいにしたい」と思って活動されている反面、心ない人がまだまだ多いのがさびしいです。

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：富士ゼロックスマニュファクチュアリング株式会社鈴鹿事業所　自然愛好会

◆主な観測地点：三滝川

雨がしばらく降っていなかったので水量が減少し、藻が発生していていつもほどの美しさはなかった。数値で川の状態が示せることは意義が大きいと感じた。継続した調査を行いたい。活動を通じて市民としてひとりひとり川をきれいにすることを再度認識できました。

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：名古屋みなと建設工事安全連絡協議会

◆主な観測地点：名古屋港

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：富士ゼロックスマニュファクチュアリング株式会社鈴鹿事業所

◆主な観測地点：矢合川

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：高松干潟を守ろう会

◆主な観測地点：高松海岸

- 日中はかなり暑く調査に出向くのに躊躇した。
- 海水温は高いと思った。生き物、水の臭い、水の色は異常なしと思う。
- ゴミが散乱するのは大雨や台風の後で、漂着ゴミの種類は多種多様と量は半端ではない。海岸線や干潟は河川の影響を受けやすいので上流からゴミの実態を調査する必要性がいると思う。
- 持込によるゴミは清掃活動を進めるうちに利用する人たちのモラルが良くなり減ってきていると思う。しかし、季節がら花火やバーベキューの使用済みゴミは多くみられる。また、ゴミがまとめてあるところへ、カラスが近寄り散らかすのでカラスの対処法も考えなければと思う。
- 小便入りペットボトルが放置されているのが増えつつあり、どうにかならないか！信号機の周辺でも見かける。
- 家電品の投棄数は少ないが必ずある。タイヤは漂着が多い。

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：いまどきのこども調査隊

◆主な観測地点：朝明川

学童保育所のキャンプ時にモニタリング調査をしました。パックテストは、興味津々の様子で取り組んでくれました。ただ、パックは堅い上慣れない作業のため計測値の信頼度は怪しいものです。なんで、水質って何？という質問や、窒素やりんを計るのはなぜ？と色々な質問をしてくれました。

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：いまどきのこども調査隊

◆主な観測地点：新川

学童保育所のキャンプ時に、三重県朝明川でモニタリング調査をしましたのでご近所の川はどんな川？というテーマで調査をしました。多項目水質計や水中カメラを使用して本格的な調査を子どもたちに体験してもらいました。公園でパックテストをしていると、公園で遊んでいる子供足りも参加してくれました。パックテストの精度はかなり怪しいものとなりましたが、小さい子供からみんな一生懸命やっていました。

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：みどりのまちづくりグループ

◆主な観測地点：大谷川

みどりのまちづくりグループは大谷川源流から内津川、庄内川へと約 14km にわたり川辺に花、植林、ゴミ拾いなど保全活動を行っている。今回の測定結果からみて決して良い水質であるといえないが、これ以上の水質汚染を防止しホタルの乱舞する水環境をつくりたいと思いを強くした。

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：みどりのまちづくりグループ

◆主な観測地点：内津川

川幅が約 10m と広がり浅瀬となり水が流れていて気持ちが良い。

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：みどりのまちづくりグループ

◆主な観測地点：庄内川

◆観測地点及び観測の様子

◆参加者名、団体名：伊勢湾流域圏再生ネットワーク事務局

◆主な観測地点：庄内川、土岐川、堀川、矢作川

- たくさんの箇所で調査できると良いと思いました。
- 最近、堀川が目に見えてよどんでいく感じがする。以前の堀川に戻りつつある。
- 矢作川にて、当初計画箇所が草の繁茂等で入川が無理と思われ、上流域に変更した。

◆参加者名、団体名：香流川をきれいにする会

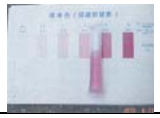
◆主な観測地点：矢田川支流香流川

1.期限を過ぎて今回の取組みを知りました。もう受け付けてくれないと思って参加をためらっておりましたが、ご親切にも快く参加の了解をいただいて早急にキットを送付してくださいました。対応に感謝しております。

2.下流の名古屋市名東区の測定と上流の長久手町での測定値の違いと同一性について、改めて興味と関心が引き寄せられました。会で結果を論議し、もっと観測地点を増やすことと観測日も増やすことができないか協議したいと考えています。

4.観測技術を高める方法、たとえば講座や書籍などを教えていただければ幸甚です。会内部の学習会も検討したいと思います。

◆観測地点及び観測の様子



◆参加者名、団体名：矢田・庄内川をきれいにする会

◆主な観測地点：矢田川、瀬戸川、山口川、才井戸流、八田川、庄内川

今回のモニタリングは、名古屋市委託の川の水質調査および湧水地の調査と同時に実施しました。名古屋市の調査地点については、名古屋市の調査方法とともに貴会からいただきました調査キットを使用しました。やや欲張って 6 地点で実施しましたので、調査終了は 3 時頃になってしまいました。当日は曇ったり晴たりで、また場所によって気温がかなり違いました。矢田川では瀬戸川の水質が悪いことを再認識しました。また、大変意外だったのは王子製紙の排水の数値がそれほど悪くないということで、今後の推移を見たいと思っております。

◆観測地点及び観測の様子

矢田川（大森橋下）守山区天子田

才井戸流れ（自噴井）守山区中志段味

瀬戸川（三郷橋西）瀬戸市東三郷町

八田川（王子製紙排水口）春日井市御幸町

◆参加者名、団体名：特定非営利活動法人伊勢湾フォーラム

◆主な観測地点：中川運河

ゴミの量は相変わらず多く、松重閘門、笹島方面の悪臭はかなりでした。夏なので、水の透明度はなく濁っており臭いました。

◆観測地点及び観測の様子